～互いに支え助け合う！誰もが安心して暮らせるまち泉～

泉わくわくプラン

第４期泉区地域福祉保健計画（令和３年度～令和７年度）

～第4期泉区地域福祉保健計画の策定にあたって～

このたび「互いに支え助け合う!誰もが安心して暮らせるまち泉」を基本理念とした、第4期泉区地域福祉保健計画を策定しました。策定にあたっては、泉区地域福祉保健計画策定・推進検討会の委員の皆様や地区別計画の策定に携わった地域の皆様など、多くの方に御協力いただきました。また、区民意見募集などを通じて区民の皆様や関係機関の皆様からも多くの貴重な御意見・御提案をいただきました。心から感謝申し上げます。

泉区の魅力の一つは地域活動が活発に行われていることです。この計画の策定中に、新型コロナウイルス感染症が拡大し、私たちの日常生活に大きな影響をもたらしました。これまでの地域活動のほとんどが休止を余儀なくされる中で、「人と人とのつながり」や地域活動の大切さをあらためて実感する機会となりました。

地域福祉保健計画はそのような「人と人とのつながり」をこれからも大切にし、未来へつなげていく計画であり、地区ごとに特徴のある12の「地区別計画」と泉区全域に関わる課題に対する取組をまとめた「区計画」をその両輪として進めていきます。また、第4期からは区民の皆様の暮らしに身近な計画として、より親しんでいただけるよう、公募で寄せられた「泉わくわくプラン」を計画の愛称としました。

地域に暮らす誰もが「つながり」を実感しながら安心して暮らすことができ、「住むなら泉区」と感じていただけるようなまちづくりを、一緒に進めていきましょう。

横浜市泉区長　深川　敦子

第4期泉区地域福祉保健計画は、地域の方々が中心となり、関係機関や団体が検討を積み重ねてようやくここに完成を迎えることができました。

泉区では、これまでの第1期計画から第3期計画まで一貫して区の計画と地区別の計画の双方が同じ方向を目指し、様々な事業が展開されてきました。私自身もこの計画とともに歩んで来たと実感しております。

この計画の大きな特徴は、そこに住む人たちが、日ごろから生活の中で感じる課題を、どう改善していったらいいかを目標に掲げているところにあります。もちろん住民の力だけでは解決できない問題もたくさんあります。そこで、行政や福祉・保健等の関係機関も一緒に力を合わせるように策定されています。

さらに、計画に愛着をもってもらい、より多くの人が関わり、参加してもらえるように今回はじめて愛称が誕生しました。

私自身、泉区民のひとりとして、また、泉区社会福祉協議会の代表としても、地域や隣近所のご縁の絆を深め、居心地のいい地域づくりに取り組んでいきたいと考えております。

社会福祉法人 横浜市泉区社会福祉協議会会長　大貫　芳夫

第1期計画より、地域の皆様からのご意見・ご協力をいただきながら策定・推進してきた泉区地域福祉保健計画も第4期を迎えました。5年を1期とするこの計画は、泉区の人々が“互いに支え助け合う”ことで“誰もが安心して暮らせるまちづくり”をめざしたものです。

第4期の泉区地域福祉保健計画「泉わくわくプラン」では第1期から3期までの計画の基本理念を継承しつつ、より実効性の高い“支え合い”をめざして、地域活動の活性化を特に重視した内容となっています。

今期計画の最大の特徴は、計画の愛称が公募によって決定され「泉わくわくプラン」に決まったことです。泉区から素晴らしいアイデアや温かい思いやりがどんどん湧き出て、そして皆さんが「ワクワク」しながら取り組んでいけるプランになればとの願いが込められています。

また、これまでの地域福祉保健計画では取組内容や達成目標が抽象的になりやすくなる課題がありましたが、第4期計画では可能な限り具体的な活動指標を設定することで計画の推進・評価が行いやすくなっています。さらに、計画内容を具体的に理解していただけるように随所にコラムによる解説を入れました。そして、地域包括ケアとの連携により、高齢者を地域全体で支援する体制づくりも充実させました。

地域における“助け合い”は、人と人とのつながりから生み出されるものです。

このつながりを得るには、日常生活のふれあいや協働の中で生み出される住民相互の連帯感や共同意識、そして信頼関係を大切にしながら、自分たちが住んでいる地域をみんなの力で住みよくしていく取組が必要です。

このコミュニティの圏域（大きさ）は、住民が実際にふれ合い支え合うことを考えると、可能な限り小地域であることが望ましいと言えます。身近な地域活動への参加を通じて、近隣住民の相互理解や信頼関係などの絆が深まり、私たちは地域を人生のかけがえのない場として認識します。地区別計画はまさに小地域の絆をつくる計画と言えます。

地域の支えあいや助け合いは、私たち自身が取り組まなければ実現しません。それは私たち自身が地域の構成員であり、私たちの持つ思いや行動力が地域力となるためです。私たちが本当に求める地域は、自分自身で考え、行動することではじめて実現するのではないでしょうか。

皆さんの思いを受けて完成した「泉わくわくプラン」を、これからの泉区の地域福祉保健の充実に向けて、ワクワクしながら推進していきましょう。本計画へのご理解とご支援を心からお願い申し上げます。

泉区地域福祉保健計画策定・推進検討会　座長　村井　祐一

目　　次

第 1 章　策定にあたって

1　はじめに（計画策定の趣旨）…… 1
2　第 1 期計画から第 3 期計画までの経過…… 5
3　統計データにみる泉区の特徴…… 7

第 2 章　地区別計画

1　地区別計画の位置づけと役割……20
2　地区別計画……21
中川地区…22　緑園地区…24　新橋地区…26　和泉北部地区…28　和泉中央地区…30
下和泉地区…32　富士見が丘地区…34　上飯田地区…36　上飯田団地地区…38
いちょう団地地区…40　中田地区…42　しらゆり地区…44

第 3 章　区計画

1　区計画とは……46
2　第 4 期計画の「基本理念」……46
3　第 4 期計画の「推進の柱」……46
推進の柱 1　健やかに過ごせるまち……49
重点項目 1　自分らしく生きるための支援を進める
重点項目 2　元気でいるための支援を充実させる
重点項目 3　地域の安全をみんなで考える
推進の柱 2　必要な支援が届くまち……57
重点項目 1　相談しやすい仕組みを整える
重点項目 2　困りごとを支援につなぐことができる人を増やす
重点項目 3　一人ひとりに寄り添った支援から地域の課題を考える
推進の柱 3　人と人、活動と活動がつながるまち……63
重点項目 1　参加する人を増やす
重点項目 2　担い手を増やす
重点項目 3　つながる機会を作る

第 4 章　計画の構成と推進体制及び進行管理

1　計画の構成……69
2　計画の推進体制及び進行管理・評価について……69

参考資料

策定・推進検討会での振り返りと課題検討……75

コロナ禍における地域活動について……19
ケアラー（介護者等）の支援について……50
障害児・者理解啓発事業……52
泉区障害福祉自立支援協議会……52
和泉川健康みちづくり事業……53
横浜市国民健康保険特定健診について……53
災害時要援護者支援について……55
福祉避難所とは……56
防犯に関する取組……56
ひきこもり等の困難を抱える若者の支援……58
保育所による地域子育て支援……60
地域の子育て支援力向上事業……60
8050問題について……61
生活困窮者自立支援制度について ……61
いわゆる「ごみ屋敷」問題について……62
生活支援体制整備事業……62
公園愛護会等の取組……64
地域活動参加へのきっかけづくり……65
泉区まちづくりみらい塾……66
持続可能な地域活動のために……66
地域ケア会議について……68

「泉わくわくプラン」とは

「泉区地域福祉保健計画」の第４期計画からの愛称です。
区民の皆様にとって覚えやすく、親しみをもってもらえるよう、公募により決定しました。
今後は、「泉わくわくプラン」を愛称として、様々な福祉保健の取組を進めていきます。

「泉わくわくプラン」に込められた想い

「泉が湧く」自然環境豊かな泉区で、
「ワクワク」しながら取り組むことで、
誰もが安心して暮らせるまちを
目指します。

第１章　策定にあたって

1　はじめに（計画策定の趣旨）

(1)　横浜市における地域福祉保健計画の策定の趣旨

地域福祉保健計画の策定の趣旨は、地域住民と関係機関・団体等が協力して取り組む地域づくりを計画として明文化し、合意形成を図りながら推進していくことにあります。

計画の策定を通じて、地域住民と関係機関・団体等が地域ごとの現状と課題を明らかにし、より良いまちづくりに向けた目標を共有することで、同じ方向を見据えてそれぞれの役割に応じた取組を進めていくことができます。（第４期横浜市地域福祉保健計画より）

平成12年に改正された「社会福祉法」で、地域福祉の推進に関する事項を定める計画として市町村地域福祉計画が位置づけられました。

（社会福祉法第４条　**地域福祉の推進**より）

地域住民、社会福祉を目的とする事業を経営する者及び社会福祉に関する活動を行う者は、相互に協力し、福祉サービスを必要とする地域住民が地域社会を構成する一員として日常生活を営み、社会、経済、文化その他あらゆる分野の活動に参加する機会が与えられるように、地域福祉の推進に努めなければならない。

また、平成30年４月に一部改正があり、地域福祉計画の策定が努力義務とされました。

（社会福祉法第107条　**市町村地域福祉計画**より）

市町村は、地域福祉の推進に関する事項として次に掲げる事項を一体的に定める計画を策定するよう努めるものとする。

2　市町村は、市町村地域福祉計画を策定し、又は変更しようとするときは、あらかじめ、地域住民等の意見を反映させるよう努めるとともに、その内容を公表するよう努めるものとする。

3　市町村は、定期的に、その策定した市町村地域福祉計画について、調査、分析及び評価を行うよう努めるとともに、必要があると認めるときは、当該市町村地域福祉計画を変更するものとする。

令和２年４月１日現在で、全国の市町村地域福祉計画の策定率は80.7%となっています。

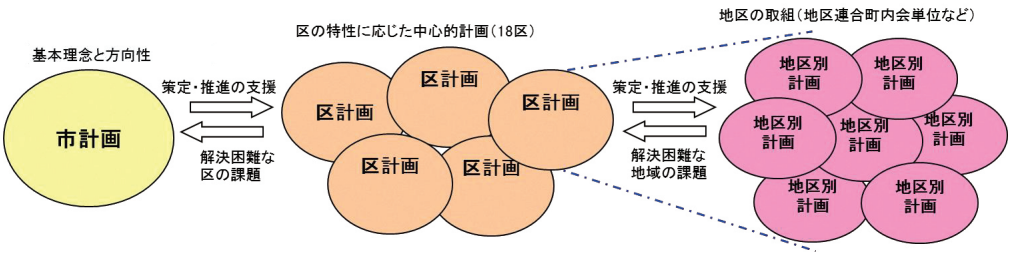
（平成31年度市町村地域福祉計画策定状況等調査結果（厚生労働省）より）

横浜市の計画は、市計画・18区の区計画・地区別計画で構成し、地域の生活課題にきめ細かく対応しながら推進するものです。なお、第２期計画からは、福祉・保健の両分野を一体的に取り組むことから、計画の名称を「横浜市地域福祉保健計画」として推進しています。これは、誰にとっても関心を持ちやすい、「健康」に関する取組を地域福祉の取組と一体的に推進することが、幅広い市民参加につながると考えているからです。

【市計画・区計画・地区別計画の関係】

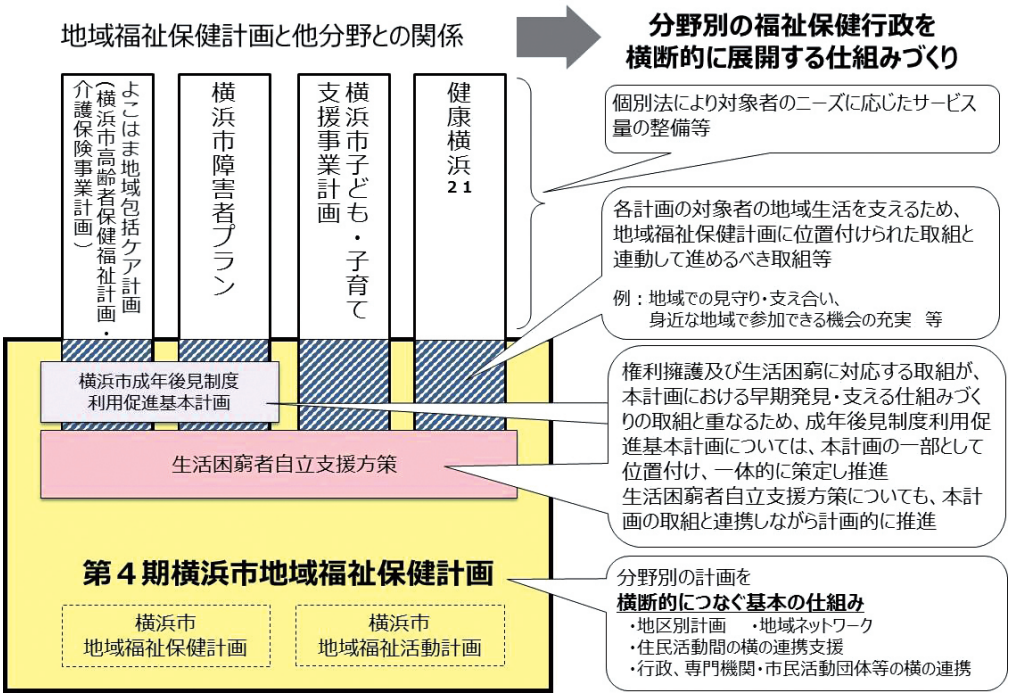
	市　計　画	区計画	
		区（全体）計画	地区別計画
位置付け	基本理念や市としての方向性を示すことにより、区計画の推進を支援する計画	区の特性に応じた、区民に身近な中心的計画	地区の課題に対応するため、地区が主体となり、区・区社協・地域ケアプラザと協働して策定・推進する計画
盛り込む内容	・分野別計画を横断的につなぎ、地域福祉保健に関する施策を調整するための連携した取組 ・区計画を進めるために必要な市や市社協による支援策、区域で解決できない課題に対する市域での取組 ・市民の活動の基盤整備に関する取組	・地域福祉保健に関する区の方針 ・地区別計画の活動を支える取組 ・区域全体の福祉保健の共通課題、住民主体の活動では解決できない課題、区域で取り組むべき課題に対する区・区社協・地域ケアプラザの取組	・住民主体の活動により解決を図る課題に対する取組 ・地域の課題の解決に向けた、地域の人材と資源を生かした身近な支え合いや健康づくりの取組 ・支援が必要な人の日常生活に連動した支援策・取組

【市計画・区計画の関係性（イメージ図）】



（第４期横浜市地域福祉保健計画より）

また、横浜市では、各法を根拠とする福祉保健の分野別計画（よこはま地域包括ケア計画、障害者プラン、子ども・子育て支援事業計画、健康横浜21）を横断的につなぐ基本の仕組みをつくる計画と位置づけられています。



（第４期横浜市地域福祉保健計画より）

(2)　泉区地域福祉保健計画が目指すもの

泉区の地域福祉保健計画は、「互いに支え助け合う！誰もが安心して暮らせるまち泉」を基本理念としています。基本理念が示すまちを実現するために、どのように進めていくかをこの計画の中で表しています。

具体的には、地域が主体的に策定し、地区ごとの課題解決に向けて地域主体の取組を進めていく「地区別計画」と、地区別計画を支えるために、区域に共通する課題解決に向けて、区役所・区社会福祉協議会・地域ケアプラザが、区民や関係機関と協働した取組を進めていく「区計画」の２つで推進していきます。

第４期泉区地域福祉保健計画は、令和３年度から令和７年度までの５年間、区民・活動団体や、区役所・区社会福祉協議会・地域ケアプラザ・関係機関等が協働して取り組み、地域における身近な生活課題を地域で解決し、地域の支え合いを進めることで、「誰もが安心して暮らせるまち」をつくることを目指します。

(3)　地域福祉活動計画について

泉区地域福祉保健計画は、泉区社会福祉協議会が策定・推進する、「泉区地域福祉活動計画」と一体化した計画です。地域福祉保健計画と地域福祉活動計画は、いずれも地域福祉保健を推進するための計画であり、相互に補完し、連携・役割分担しながら総合的に推進する必要があるため、両計画を一体的に策定・推進しています。

(4) 「横浜型地域包括ケアシステムの構築に向けた泉区アクションプラン」との連携

第４期計画からは、高齢者の生活を地域全体で支援する体制づくりを目的とした「地域包括ケア」の取組との連携を深めるため、「横浜型地域包括ケアシステムの構築に向けた泉区アクションプラン（以下、「泉区アクションプラン」という）と一体的に計画を推進していきます。「泉区アクションプラン」は、第４期計画のうち高齢者支援にかかる取組(※)をまとめた別冊版として発行し、より具体的な内容を盛り込み再構築します。

（※）対象を高齢者に限定しない取組も含みますが、広く高齢者支援にかかる取組としてとらえています。

【参考】　地域包括ケアシステム

団塊の世代が75歳以上になる令和７（2025）年には、泉区においても、「区民の５人に１人が75歳以上の後期高齢者」という社会を迎えます。高齢者人口の増加と若年人口の減少が見込まれる中で、今後は「支える側」「支えられる側」といった垣根を越え、それぞれができることを活かして互いに支え合う地域づくりが必要です。子ども・高齢者・障害者など誰もが安心して暮らしていくことのできる『地域共生社会』の実現を目指し、身近な地域ケアプラザエリアで、「医療」「介護」「介護予防」「生活支援」などが一体的に提供される『地域包括ケアシステム』を構築していきます。

地域包括ケアシステムのイメージ

2　第１期計画から第３期計画までの経過

(1)　第１期計画（平成17年度から21年度）

第１期計画では泉区内を連合自治会・町内会のエリアを基にした12の地区に分け、「地区別計画」を策定し、地区ごとに、区民や活動団体等が様々な取組を行いました。地区ごとにそれぞれの目標を設定し、課題解決に取り組むことで、成果をあげてきました。

(2)　第２期計画（平成22年度から27年度）

第１期計画は地区別計画のみを推進してきましたが、第２期計画策定にあたり、

・地区に共通した課題があること
・地区間の連携が必要なこと
・地区だけでは解決できない課題もあること

などが明らかになってきました。そこで、それらの課題に対して地区の取組を支援するとともに、第２期計画では区全体の取組の方向性を示す「区計画」を策定しました。さらに、「支え合い・助け合いが活きる！元気の出るまち泉」という基本理念を定め、区計画と地区別計画が同じ方向を目指して活動を進めました。

(3)　第３期計画（平成28年度から令和２年度）

第２期計画に引き続き、「支え合い・助け合いが活きる！元気の出るまち泉」という基本理念を基に、区計画と地区別計画が同じ方向を目指して活動するとともに、市計画・区計画・地区別計画の３層の構成で、地域の多様な課題に対して協働して取り組んできました。

(4)　第３期計画の振り返り

第３期計画の３年目に実施した中間振り返りや策定・推進検討会では、主な成果や意見として、次のことが挙げられました。

◇生活習慣病予防の啓発やウォーキング講座の開催などを通じて、幅広い年代で健康づくりの関心が高まり、取組が充実した。

◇いつまでも住みよいまちでいられるよう、地域での行事等を通じて様々な場所で交流が広がった。また、地域での困りごとの解決に向けて、多職種、多様な主体の連携が深まった。

◇イベント等を通じて、活動を始めるきっかけを作ることができた。また、身近な活動の紹介や講座の開催、リーフレットの作成・配布を通じて、多くの方に地域活動に興味を持ってもらうことができた。

(5)　第４期計画の策定にあたっての課題整理

第３期計画の振り返りを踏まえ、第４期計画の策定にあたっては、次のように課題を整理しました。

◇地域での様々な活動に関する情報を収集、整理、発信していくことが十分ではない。

◇様々な相談窓口があるということが、地域に対して十分に周知できていない。

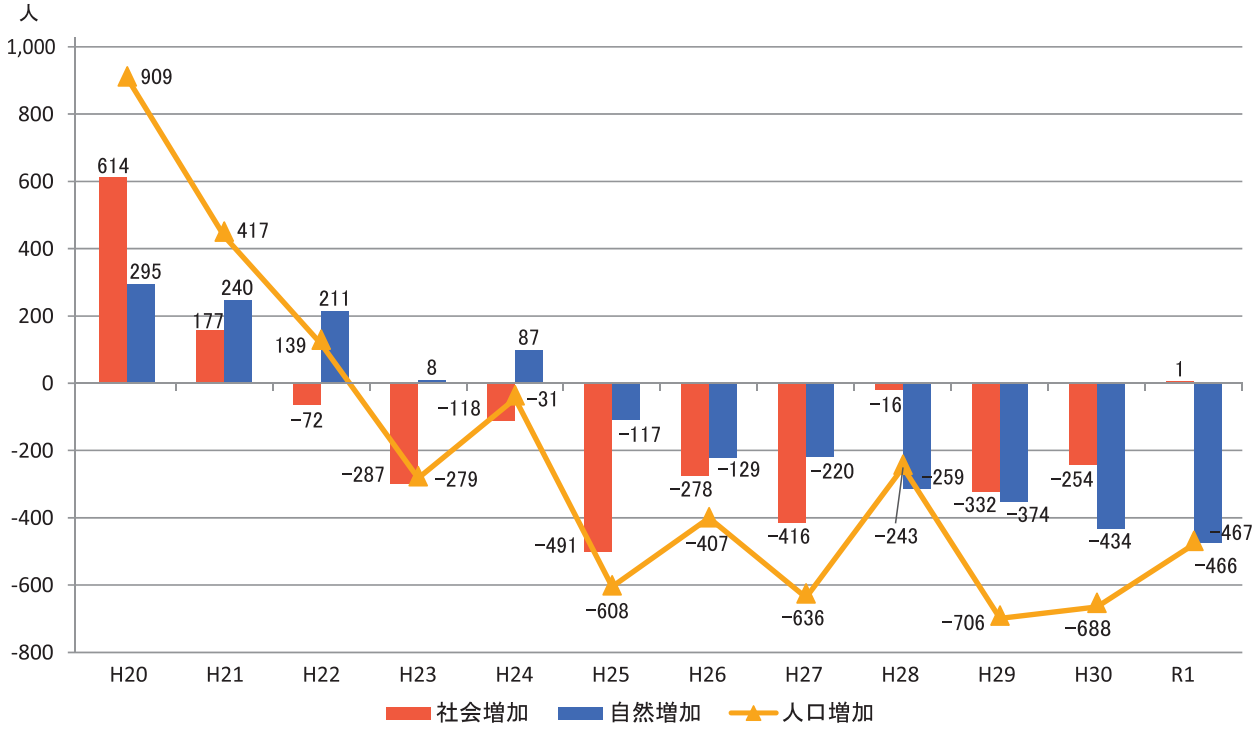
◇担い手の固定化と高齢化は続いていくため、多くの人が地域活動に参加できるような働きかけの継続が必要である。

◇区民意識調査の結果より、地域活動への参加意欲が低い住民が増加していることがわかった。

3 統計データにみる泉区の特徴

(1) 泉区の人口動態

（出展：横浜市統計ポータルサイト）



※自然増加数＝出生数－死亡数
　社会増加数＝転入数―転出数＋その他増減

平成20年以降、人口増加が鈍化し、平成23年からは人口減少に転じました。それ以降、人口減少は続いていますが、社会増加数は令和元年度は増加に転じています。

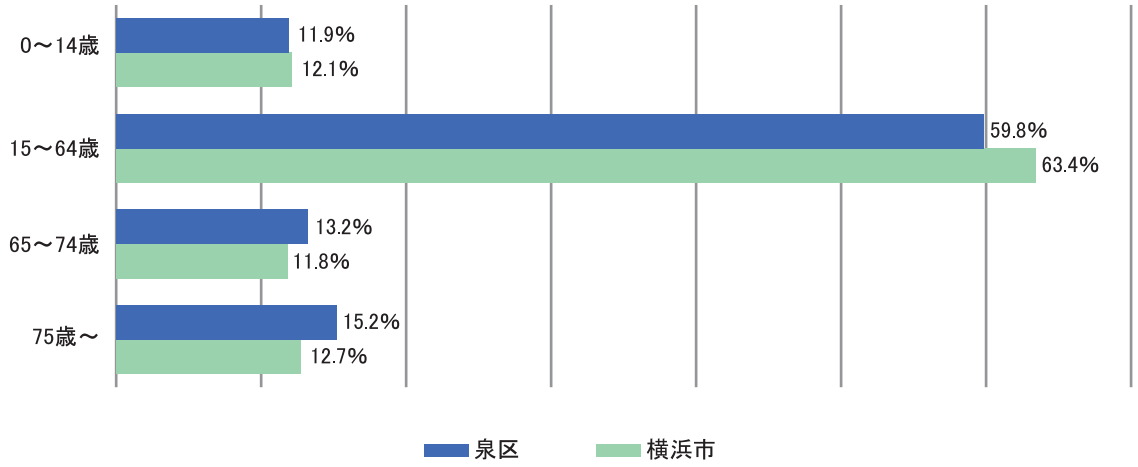
(2)　泉区の人口と人口割合（各年３月末時点）

（出展：横浜市統計ポータルサイト）

		0～14歳	15～64歳	65～74歳	75歳～	65歳以上	総人口
泉　区	平成28年	19,937	94,216	21,811	19,178	40,989	155,142
	平成29年	19,454	93,384	21,477	20,313	41,790	154,628
	平成30年	19,112	92,428	21,207	21,306	42,513	154,053
	平成31年	18,582	91,745	20,463	22,497	42,960	153,287
	令和２年	18,176	91,509	20,211	23,205	43,416	153,101
	（比率）	11.9%	59.8%	13.2%	15.2%	28.4%	
横浜市	令和２年	454,269	2,382,600	443,249	477,713	920,962	3,757,831
	（比率）	12.1%	63.4%	11.8%	12.7%	24.5%	

（単位：人）

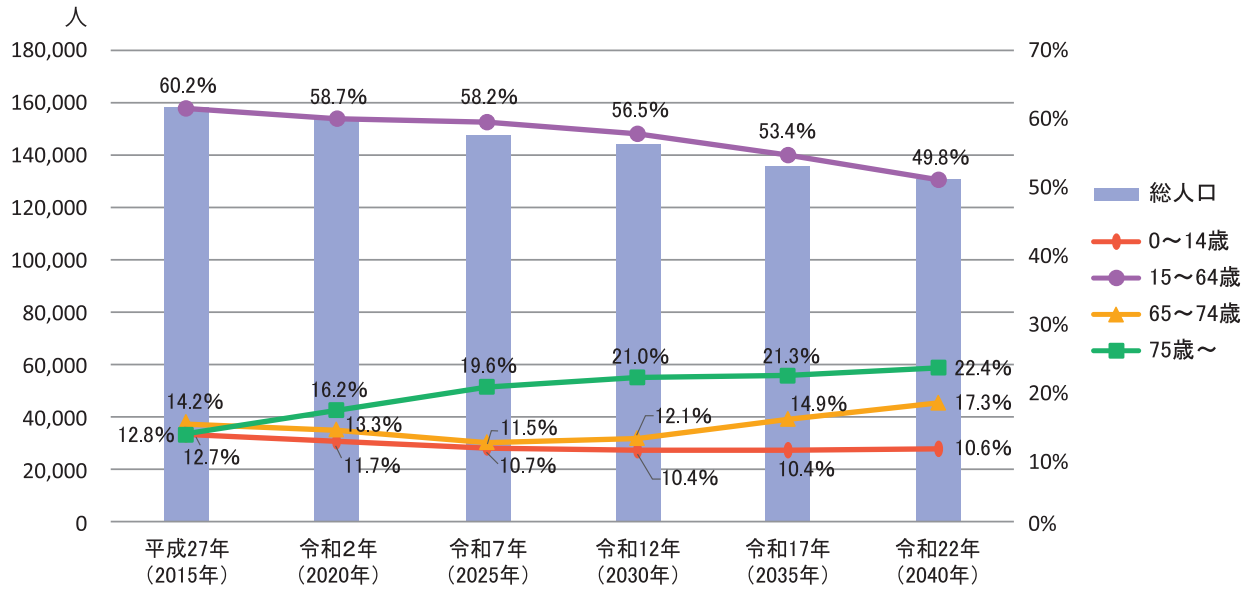
人口割合（令和２年）



泉区の人口は令和２年３月末現在、約153,000人となっており、緩やかに人口の減少が進んでいます。
横浜市全体と比べると、64歳以下の人口が少なく65歳以上の高齢者が多く暮らしている区であると言えます。
高齢化率で見ると、全市平均より４％ほど高く、泉区の高齢化が確実に進んでいることが分かります。（18区中、５番目の高齢化率）

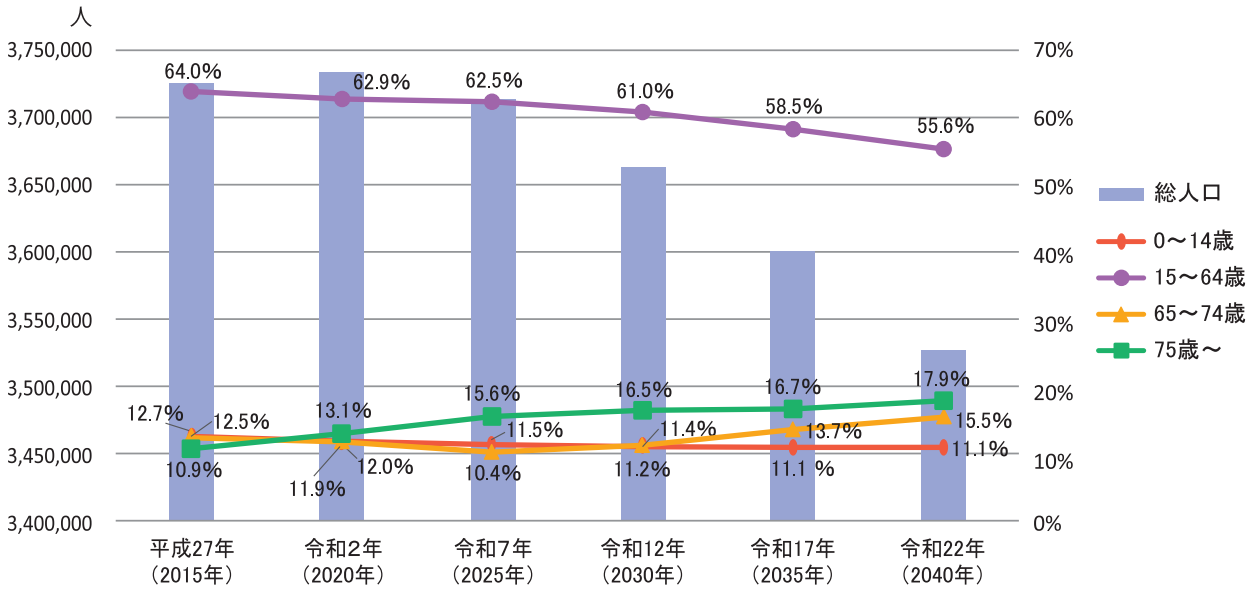
(3)　泉区の人口推計（平成27年時点を基準・令和２年以降は推計）

（出展：横浜市の将来人口推計を基に作成）



（参考）横浜市の人口推計（平成27年時点を基準・令和２年以降は推計）

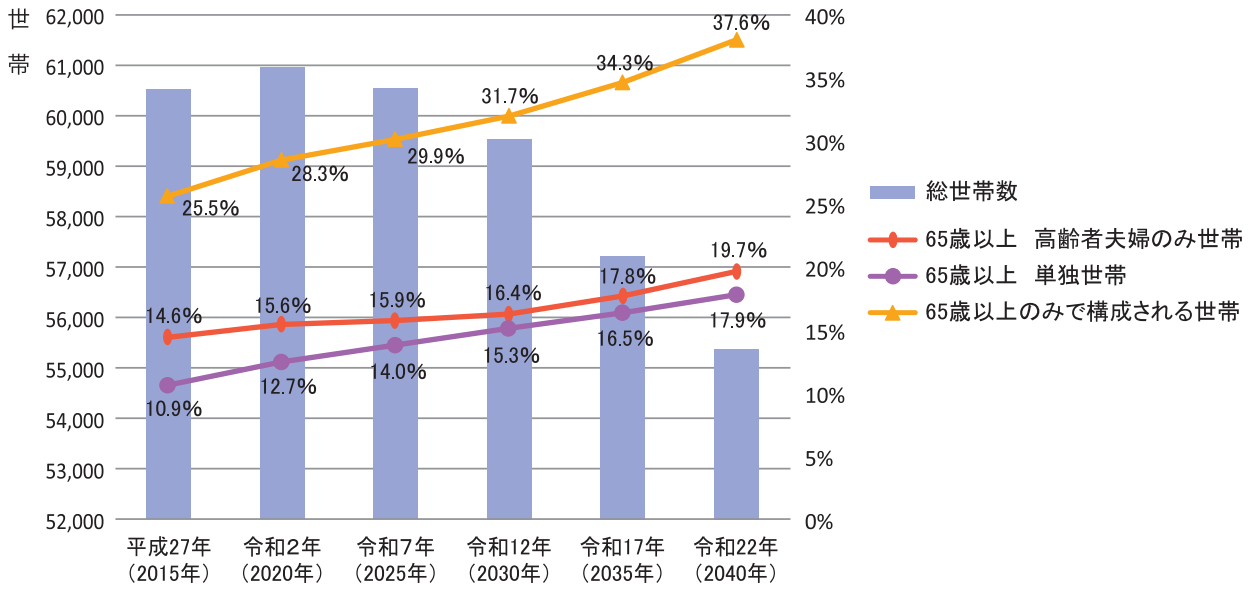
（出展：横浜市の将来人口推計を基に作成）



「横浜市の将来人口推計」によると、泉区では総人口と生産年齢人口（15～64歳）ともに緩やかに減少しています。
一方で65歳以上の割合は増加傾向にあり、団塊の世代が75歳を迎える令和７年には、75歳以上の後期高齢者の割合は19.6%となり、さらなる高齢化が進むと推測されています。

(4)　泉区の高齢者世帯の割合（平成27年時点を基準・令和２年以降は推計）

（出展：横浜市の将来人口推計を基に作成）



泉区では65歳以上の高齢者夫婦のみ世帯及び単独世帯が増加していくと推測されており、病気や介護のリスクの高まりなどから生活上の困りごとも増えてくることが考えられます。日常的な見守り等地域がつながりあって支えていくことが、いっそう重要になってくると言えます。

(5)　泉区の年少人口と年少人口比率（令和２年３月末時点）

（出展：横浜市人口ポータルサイトを基に作成）

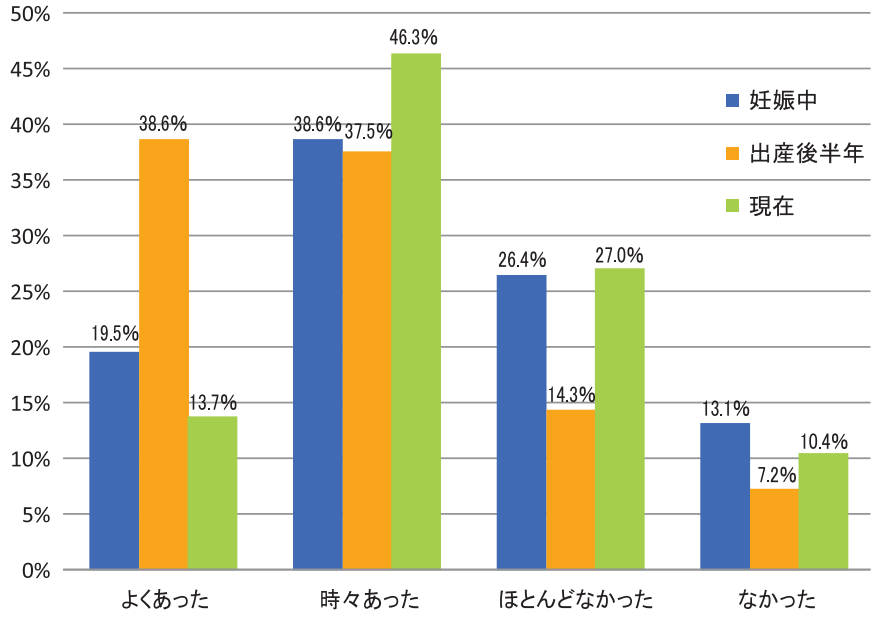
	０～４歳	５～14歳	15歳未満合計	総人口
泉　区	5,358人 （3.5%）	12,818人 （8.4%）	18,176人 （11.9%）	153,101人
横浜市	140,850人 （3.7%）	313,419人 （8.3%）	454,269人 （12.1%）	3,757,831人

令和２年３月末時点で、泉区の年少人口は横浜市平均とほぼ同水準で推移しています。また、令和元年度中の出生数は1,020人で18区中14番目の出生数となっています。

（横浜市人口動態統計資料より）

(6) 子育てに対して不安を感じたり、自信を持てなくなったことがあるか

（出展：子ども・子育て支援事業計画策定のためのニーズ調査（平成30年実施）を基に作成）



子育てについて不安を感じたり、自信を持てなくなったことが「よくあった」「時々あった」を合わせると、「妊娠中」で58.1%、「出産後半年」で76.1%、「現在」が60.0%となっており、地域全体で子育て世代に対するサポートをしていくことが大切と言えます。

(7) 泉区の自治会町内会加入世帯数・加入率の推移（各年４月１日現在）

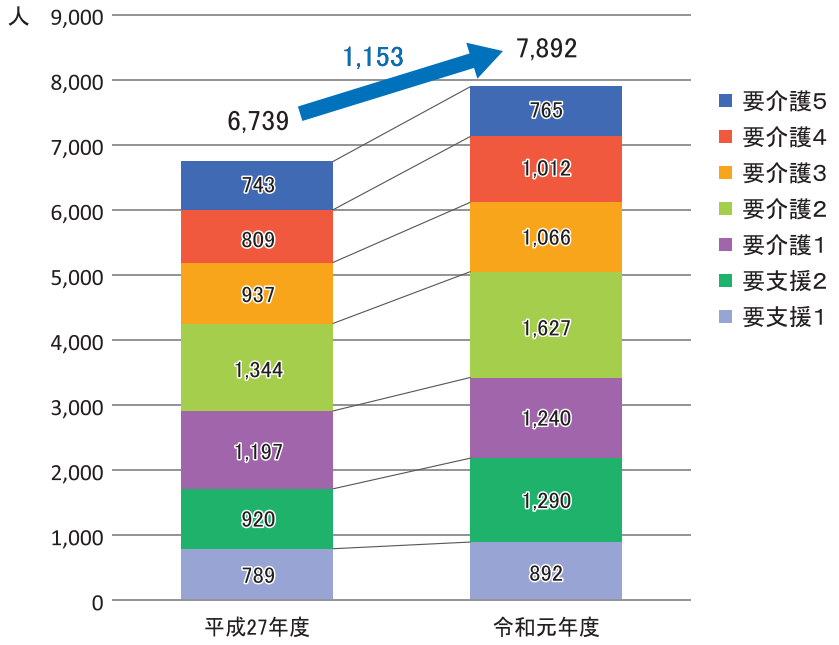
（出展：IZUMI2020区政便覧より）

	平成29年	平成30年	平成31年
区内世帯数	61,376	61,643	62,010
自治会町内会加入世帯数	47,832	47,765	47,425
自治会町内会加入率	77.9%	77.5%	76.5%
（横浜市自治会町内会加入率）	（74.1%）	（73.4%）	（72.4%）

泉区の自治会町内会加入率は減少傾向にありますが、横浜市平均と比べ４%ほど高い水準となっており、泉区は18区中４番目に高い加入率となっています。

(8)　泉区の介護保険認定者数の推移（各年３月末時点）

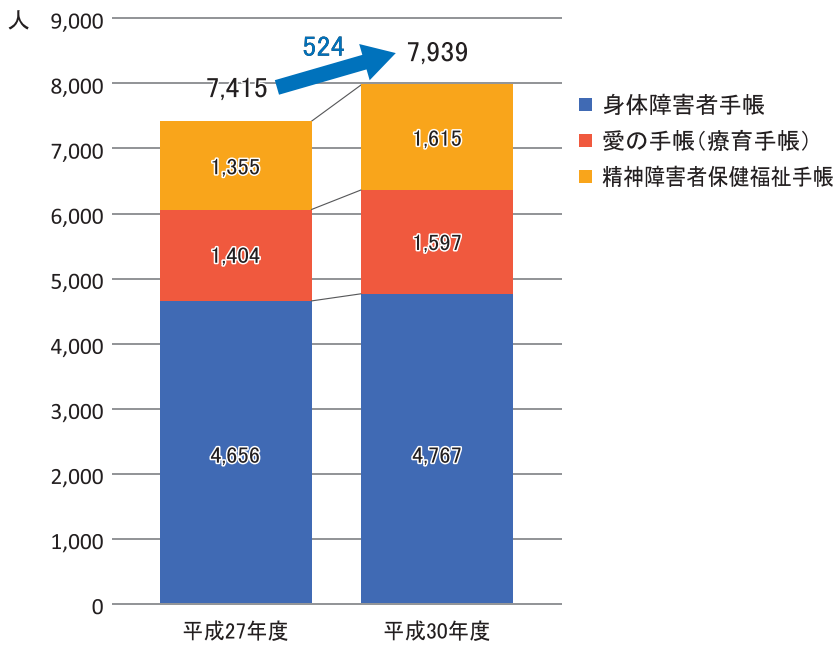
（出展：横浜市人口ポータルサイトを基に作成）



令和元年度末時点で、泉区での介護保険認定者数は7,892人と増加しています。少しでも長く健康に暮らせるよう、介護予防に努めることが重要です。

(9)　泉区の障害者手帳所持者の推移（各年３月末時点）

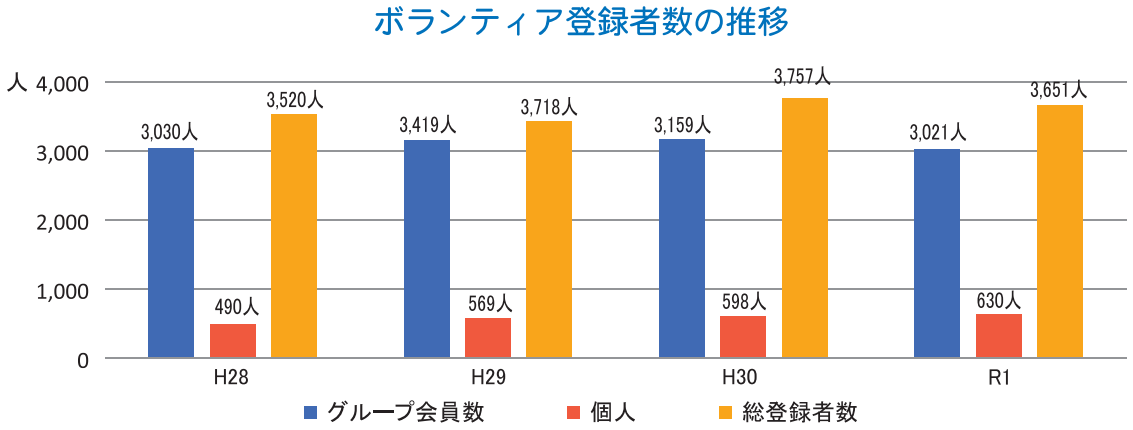
（出展：横浜市人口ポータルサイトを基に作成）

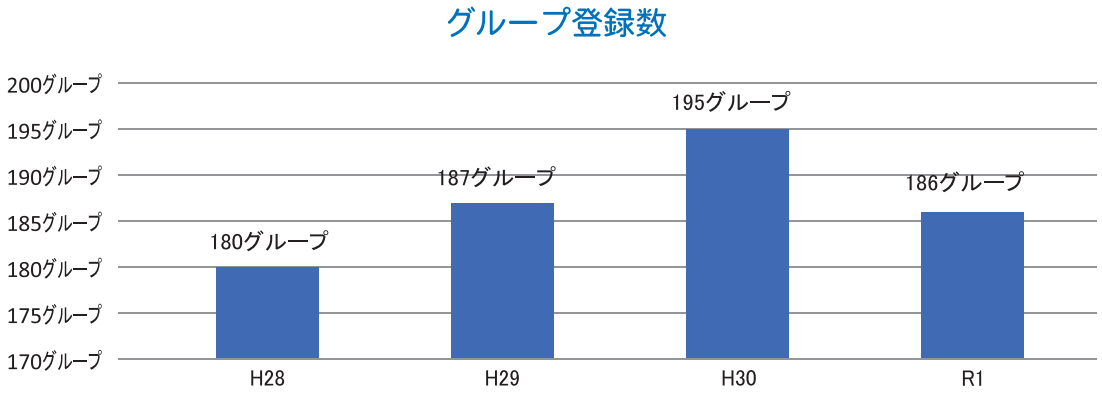


平成27年度末時点の泉区の各障害者手帳の所持者は7,415人（総人口の4.7％）でした。
平成30年度末時点の所持者は7,939人（泉区総人口の5.1％）となっており、障害者手帳所持者の割合は増えています。

⑽　泉区ボランティアセンターの利用状況

泉区ボランティアセンターは、泉区社会福祉協議会が運営しており、日頃の生活の中で手助けが必要な時や、社会福祉施設などの行事でボランティアが必要になった時などに、相談を受け、ボランティアを紹介する役割を担っています。





泉区ボランティアセンターへの登録者数の推移をみると、年度により多少の増減がありますが、グループ及び個人の登録者数とも一定の数値を保っています。

また、同じく泉区社会福祉協議会が行う助成事業において、要援護者への支援を行うサロン活動、家事・生活支援活動や会食・配食活動で助成金を受配しているボランティア団体は、平成30年度から令和２年度の３年間の平均で、107団体あります。この中でボランティアセンターに登録している団体は約35％にとどまっています。

こうした結果から、今後これらの助成金受配団体とも連携して、自分たちが住む地域での、身近な支え合い活動を広げる必要があります。

⑾　泉区の特徴（泉区区民意識調査より）

令和元年７月に、泉区全域を対象に区政に対する考えや意見（生活意識、買い物行動、地域活動、福祉施策、広報・広聴等）についての区民意識調査を実施しました（対象3,000人、回収数1,753通）。地域福祉に関連する内容のうち、主な結果を紹介します。

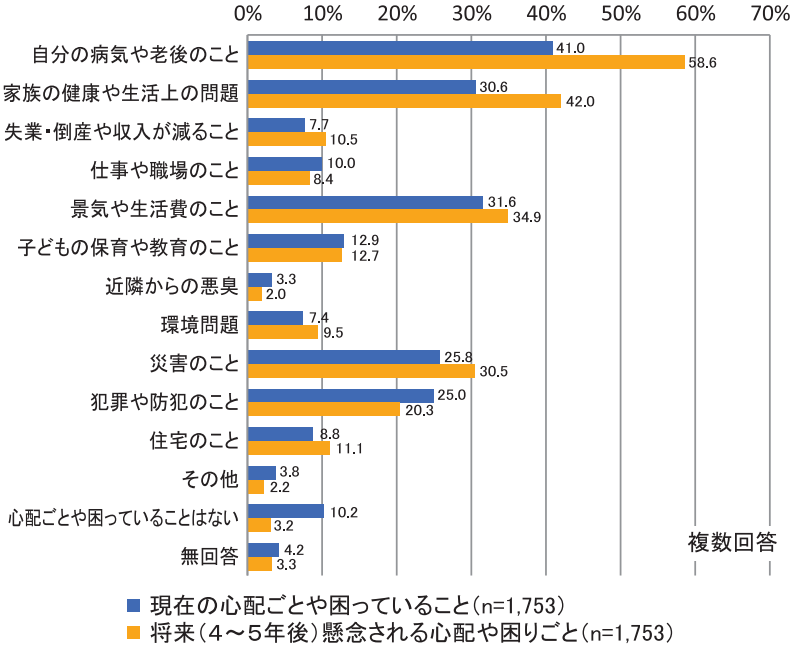
【令和元年度泉区区民意識調査　調査結果報告書より抜粋】

●泉区に住んで感じる魅力

泉区に住んで感じる魅力	件数
自然が豊か・緑が多い	551
住環境が良い	191
静か	161
田舎過ぎないのどかな環境・おちついた町	128
交通の便が良い	97
日常の買物が便利等、生活が便利	95
平穏・平和な感じ	61
地域のつながり・人情がある・人柄がよい	55
横浜・湘南にアクセスしやすい	54
農地が多い・農産品が多い	52
治安が良い	50
駅が近い	42
子育てしやすい・子ども達がのびのび育っている	41
施設がそろっている	31
空が広い・空気が良い	25
災害に強い	22
坂が少ない	20
道路・交通が便利で渋滞がない	19
町がきれい・町のセンスが良い	17
家賃が安い	8
区役所の職員が親切	8
川がきれい	6
住み慣れている	6
保育園に入りやすい	4
文化的催しやイベントが多い	4
その他（課題等のご意見を含む）	33
	1,781

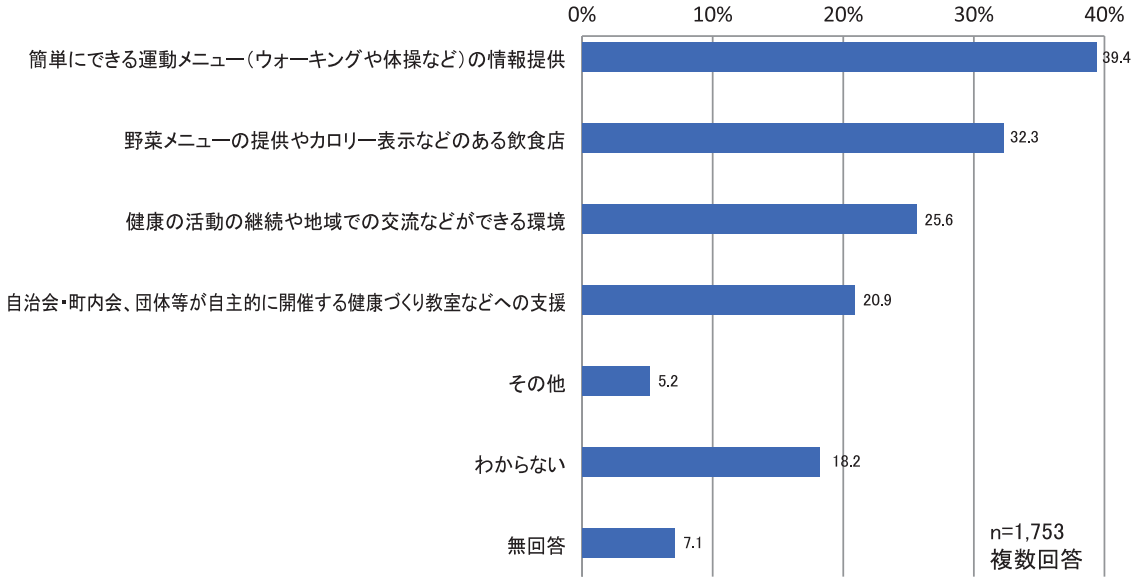
「自然が豊か・緑が多い」「住環境が良い」「静か」など、泉区が住みやすい環境にあることがうかがえる結果となっています。

●心配ごとや困っていること



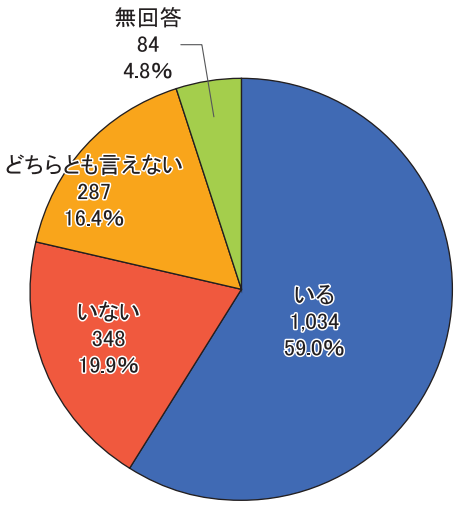
現在の心配ごとや困っていることは「自分の病気や老後のこと」が最も多く、半数近い人が挙げています。次いで「家族の健康や生活上の問題」「景気や生活費のこと」が3割以上です。前回調査と比べ、災害に関する心配が増加しています
（平成26年17.1%
→令和元年25.8%）

●健康づくりを進めるうえで、整備されているとよい環境



平成26年度調査に引き続き、「簡単にできる運動メニュー（ウォーキングや体操など）の情報提供」が最も多く、２番目は「野菜メニューの提供やカロリー表示などのある飲食店」を挙げています。

●家族や自身が認知症になったときに、身近に相談できる人がいるか

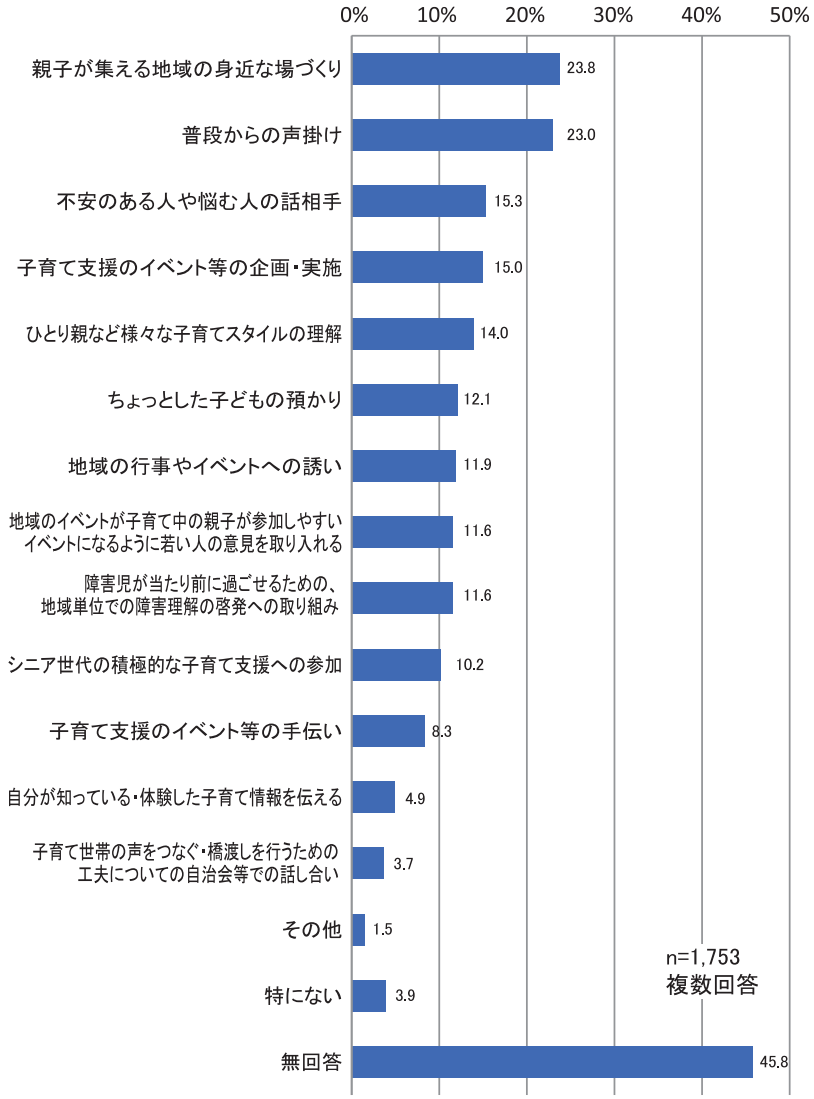


n=1,753

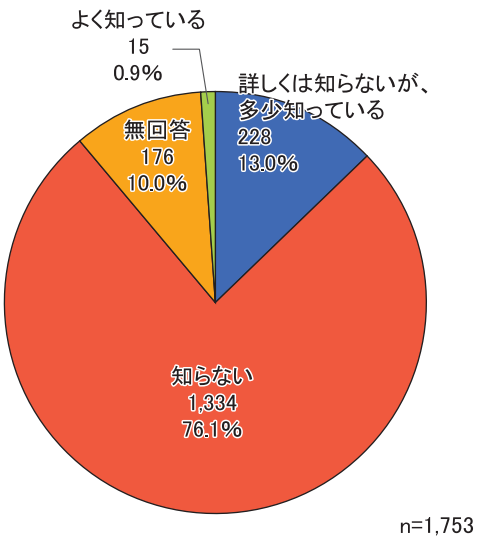
4割近くの人が「いない」「どちらとも言えない」となっており、相談先の周知等、情報発信が重要なことがうかがえます。

●子育て中の親子が地域とつながりを持つために、隣近所や地域住民にできる取組

「親子が集える地域の身近な場づくり」「普段からの声掛け」が2割を超えています。

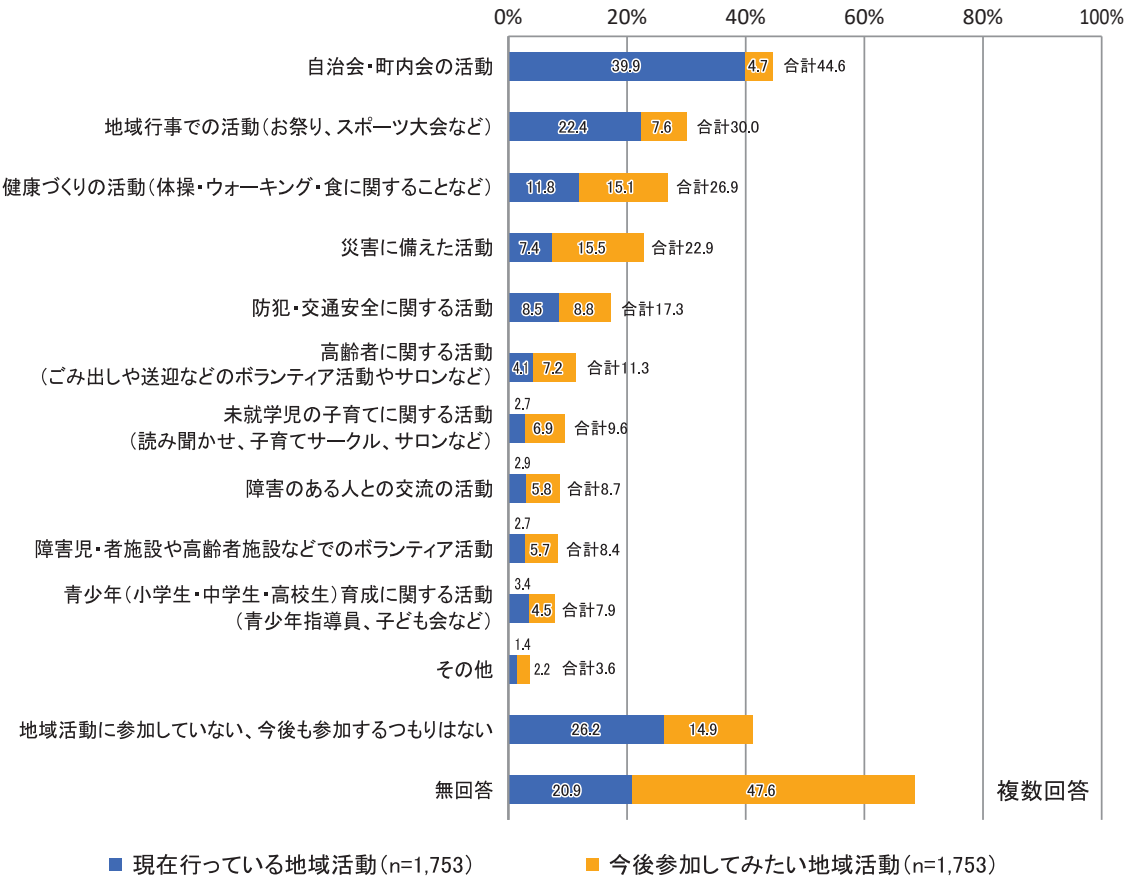


●引きこもり等の困難を抱える人や家族に対して、横浜市が行っている様々な支援や取組の認知度



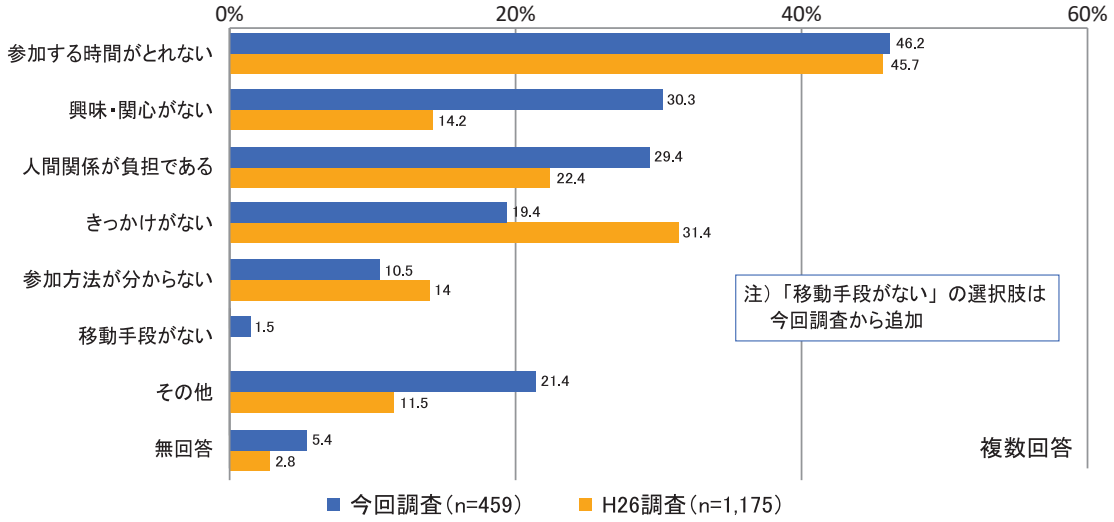
7割以上の人が「知らない」と回答しており、周知や情報発信がより重要です。

●現在参加している活動、今後参加してみたい活動



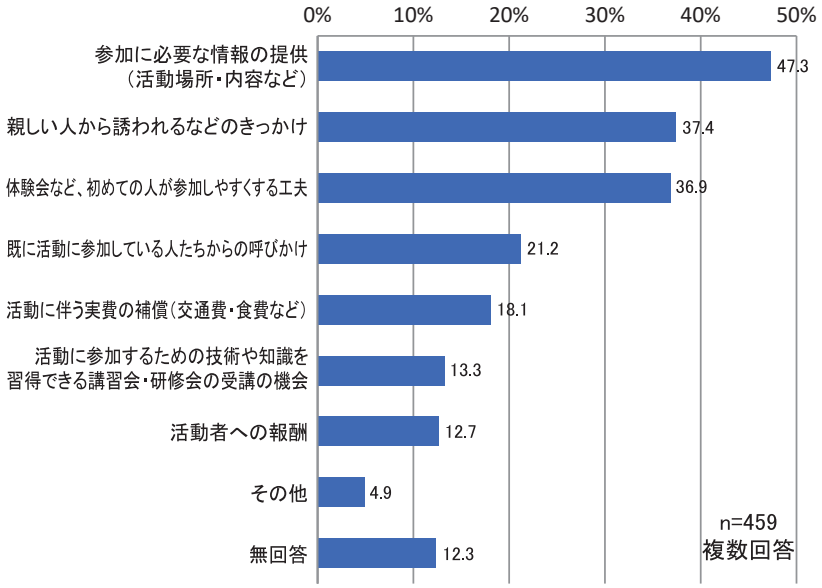
「自治会・町内会の活動」が4割程度ある一方、「地域活動に参加していない、今後も参加するつもりはない」も同程度の割合となっています。

●地域活動に参加していない、またはためらう理由



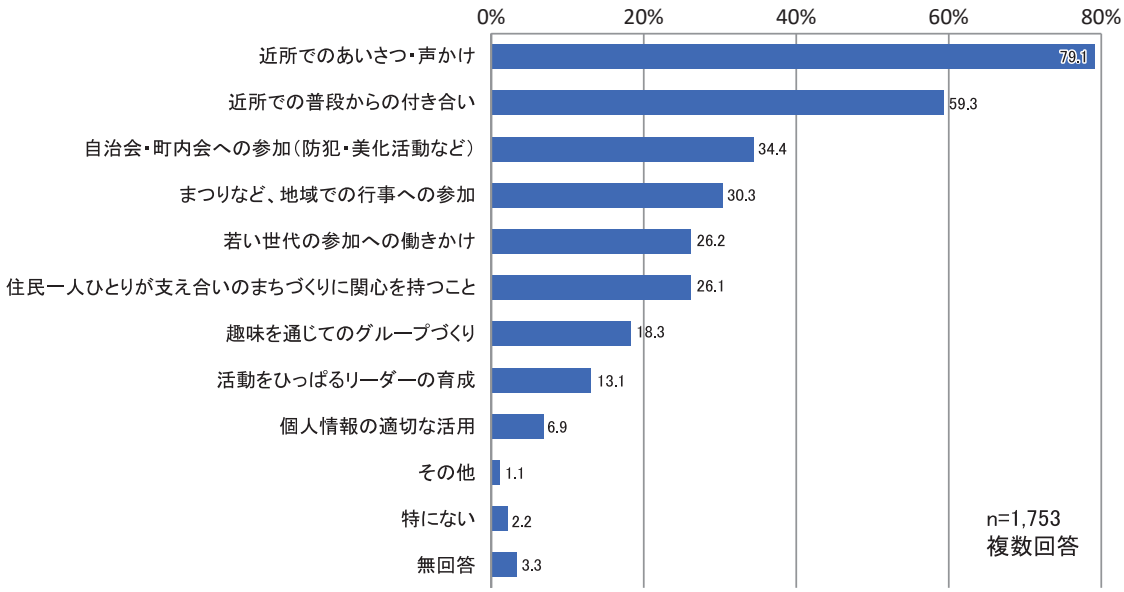
「参加する時間がとれない」が半数近くを占めています。
また、平成26年度調査に比べ「興味・関心がない」が急増しています。
（平成26年14.2%→令和元年30.3%）

●地域活動に、より多くの人が参加できるようにするために必要なこと



「参加に必要な情報の提供（活動場所・内容など）」を半数近くの人が挙げており、情報発信の必要性が表れています。
次いで「親しい人から誘われるなどのきっかけ」「体験会など、初めての人が参加しやすくする工夫」が挙がっています。

●地域で「身近な支え合いの関係」を築いていくために必要なこと



「近所でのあいさつ・声かけ」を約８割の人が挙げています。次いで「近所での普段からの付き合い」が挙がっており、近所での関係づくりに関する項目が上位２項目となっています。

コロナ禍における地域活動について

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、令和２年３月頃から地域活動の継続に影響が出始め、４月に緊急事態宣言が発令された後は、多くの地域活動が休止する状況となりました。５月に宣言が解除された後も、以前と同様の活動にはなかなか戻れないことが続いています。

しかし、住み慣れた地域でいつまでも元気に暮らしていくためには地域のつながりを絶やすことなく、地域活動を継続していくことが大切です。地域活動が停滞してしまうと、地域でのつながりが薄くなり、日常の困りごとに対する助け合いや災害時などの安否確認が難しくなる可能性が出てきます。また、外出の機会が失われることにより、高齢者の体力低下による健康状態の悪化と疾病のリスクが高まる可能性があります。

これらのことを念頭に、これまでの地域活動の形を変えるなど、新しい生活様式に応じた「新しい形の地域活動」を続けていく工夫が必要となってきています。

具体的には、活動の動画配信やＳＮＳを利用しての情報共有・見守りやリモートで会合へ参加するなどのＩＣＴの活用に加え、密を避けるため少人数のグループに分けて時間差での活動を複数回行ったり、食事会を配食に変更して顔が見える関係を継続するなど、様々な工夫を凝らして活動の継続が図られています。

今後もマスク着用や手指消毒などの感染症対策の取組を徹底したうえで、さらに様々な工夫をして地域活動を続けていくことが大切です。

距離を保っての活動

少人数から活動を再開

第２章　地区別計画

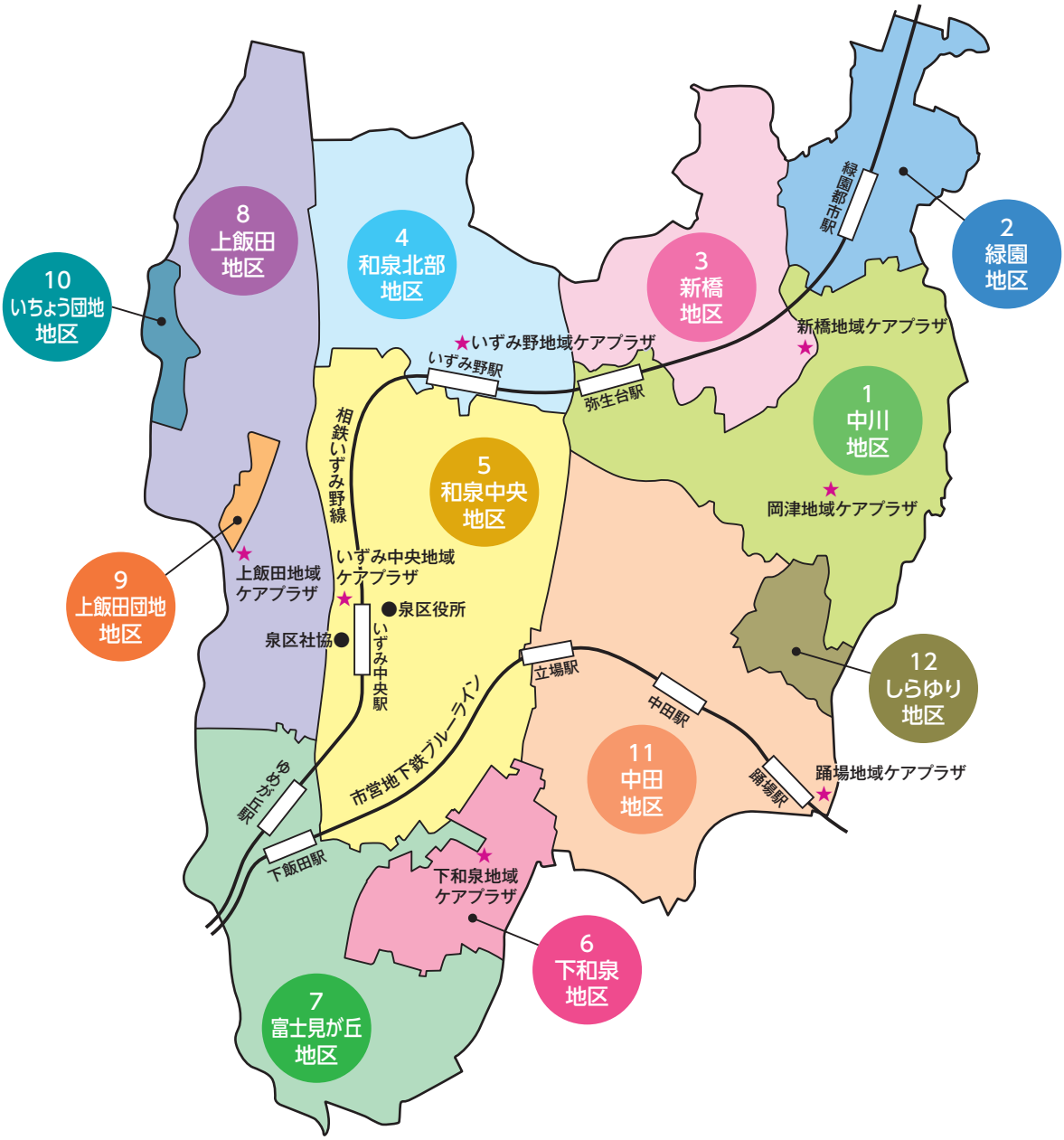
1　地区別計画の位置づけと役割

地区別計画は、より身近な地域の課題に対して、きめ細かく対応するための、地域住民の皆様や活動団体による支え合いの取組を示すものです。それぞれの地域で、福祉保健活動に関わる方々を中心に、地域住民自ら策定した計画です。

泉区では、第１期計画から、連合自治会・町内会のエリアを基にした 12 の地区ごとに、地区別計画を策定・推進しています。

第４期計画では、それぞれの地区で目指すまちの姿を実現するために、目標と取組を検討し、地区別計画を策定しました。

泉区内の12地区



2 地区別計画

第１期計画から、地域のみなさんが主体となって、様々な取組が行われてきました。その結果、世代間交流や活動団体間のネットワークづくり、高齢者サロンや健康づくり活動の増加など、たくさんの成果につながっています。

これまでの成果を踏まえてさらに充実したものにしていくために、第４期計画においても、地区の特性に合わせた、個性豊かな取組を推進していきます。推進にはみなさんの力が必要です。お住まいの地区の計画を見て、ぜひ取組に参加してください。

12 地区別計画の基本理念

地区名	基本理念
中川地区	ご近所で助け合えるまちを目指して
緑園地区	つながりの輪を広げ　支えあい・助け合うまち緑園
新橋地区	ぬくもりのある町しんばし
和泉北部地区	健やかで明るい、ふれあいのあるまち
和泉中央地区	誰もが楽しく安心して暮らせるまち
下和泉地区	みんなが支え合い、安心して健康に暮らせるまち
富士見が丘地区	ご近所どうしで助け合い　安全・安心・快適なまちづくり
上飯田地区	みんな仲間のまち　上飯田　～あいさつと笑顔とやさしさと～
上飯田団地地区	支え合い、安心して暮らし続けることができる上飯田暖地
いちょう団地地区	こんにちは　你好　Xin chào　みんな笑顔で支えあうまち
中田地区	みんなで支えあい、ともに助け合う（まち）中田
しらゆり地区	ほどよくつながる楽しいまち　“しらゆり”

第４期中川地区地域福祉保健計画（令和３年度～７年度）

中川地区

【基本理念】 **ご近所で助け合えるまちを目指して**

中川地区の目指すまちの姿

- みんながお互いに支え合い助け合うことができるまち
- 障害者、高齢者、こどもなど、みんなが安心して暮らせるまち
- みんなが健やかに生きがいを持てるまち

中川地区は岡津町、桂坂、西が岡、弥生台、領家、新橋町の一部、白百合三丁目の一部で構成されており、人口は令和２年３月時点で24,172人、高齢化率は25.52%となっています。

中川地区は畑や林など自然環境に恵まれており、遺跡や由緒ある寺社が数多く存在し、かまくら道をはじめ大山道、岡津道が通り、歴史ある地域です。また、地区内にはケアプラザや、地区センター、コミュニティハウス、泉寿荘、スポーツセンターなどの施設が充実し、地域活動が活発に行われています。

課題

- 担い手不足（ライフサポート隊など）
- 子育て支援体制の構築
- 障害者への理解
- 認知症への理解
- ネットワークづくり

第４期計画の具体的な取組

支援づくり

- ライフサポート隊
- 学習応援・こども＆地域食堂
- NEW 障害者や認知症への理解を深めるための講座

健康づくり

- 健康体操教室
- わが街散策ツアー

担い手づくり

- ボランティア交流会
- ボランティア講演会

居場所づくり

- 高齢者サロンや子育てサロンの開催・支援
- 里山夢プロジェクト
- 障害のある方も参加しやすい仕組みづくり

現状の分析と共有

- NEW ネットワーク構築・活動支援
  「活動の活性化」「課題共有・解決」「情報交換・助け合い」を目的とした団体のネットワークを構築します。
- 情報発信
  ホームページや地区社協だより「なかがわ」を活用し、サロンやイベントの情報を発信します。

その他、 中川連合町内会の活動など、
中川地区内の様々な活動と連携して取り組んでいきます。

第３期計画（平成２８年度～令和２年度）で重点的に取り組んだこと

1. 新規事業として「里山夢プロジェクト」を立ち上げ、「みんなで、みんなのふるさとを」を合言葉に、週に１度の定例作業や、じゃがいも・さつまいも堀り体験会、いも煮会などのイベントを通じて、健康づくり・生きがいづくり・担い手づくりに取り組みました。
2. 平成28年12月からは「学習応援・こども＆地域食堂」がスタートし、食事や勉強の場だけでなく、交流の居場所となっています。
3. 高齢者・障害者の方などを対象に、日々の生活での困りごとをお手伝いする「ライフサポート隊」の活動に取り組みました。

中川地区の活動紹介

里山夢プロジェクト

○内容：野菜作り
○日時：毎週火曜 9：30 ～
○場所：岡津町
けいあいの郷緑園前
「OZAWA　FARM」

じゃがいも堀りやさつまいも堀り、芋煮会などのイベントも開催しています♪

ライフサポート隊

○対象：高齢者・障害者
○内容：庭の草取り・枝切り、粗大ごみの搬出、家具の移動、電球の交換、家事手伝いなど、日常のちょっとした困りごとをお手伝い
○申込・連絡先：080-9261-8000

お手伝いをしてくれる隊員も募集中!!

学習応援・こども＆地域食堂

○内容：ボランティアによる学習サポート（無料）
夕食の提供（こども 200 円、大人 300 円）
○日時：毎週水曜 16：00 ～ 19：00
○場所：コミュニティだんだん

健康体操教室

○内容：60 歳以上の人の体操教室
○日時：火曜教室
第１火曜
13：00 ～ 14：30
金曜教室
第３金曜
10：00 ～ 11：30
○場所：岡津地域ケアプラザ

岡津サロン

○内容：高齢者サロン
○日時：第２水曜
10：00 ～ 12：00
○場所：岡津地域ケアプラザ

永明寺別院サロン

○内容：多世代交流サロン
○日時：第２火曜
10：00 ～ 12：00
○場所：永明寺別院

タンタン

○内容：乳幼児向け子育てサロン
○日時：毎週木曜
10：00 ～ 11：30
○場所：弥生台自治会館

中川地区の活動情報を発信していきますので、ぜひご覧ください♪
上記以外の活動や、イベントの日程等もホームページに掲載しています。

【策定】　中川地区社会福祉協議会、中川連合町内会
（ホームページ）http://network.shakyo-iy.or.jp/chiiki_act/301/301_1.html

【協力】　中川地区支援チーム
岡津地域ケアプラザ 812-0685 ／泉区社会福祉協議会 802-2150 ／泉区役所福祉保健センター 800-2433

つながりの輪を広げ 支え合い・助け合うまち緑園

＼緑園地区が目指すまちの姿／

地域福祉活動の充実を図り、誰もが健康で安全・安心して暮らせるまち！

安全で健やかに過ごせるまち

各自治会、民生、社協等各種団体が協働して
見守り活動支援・高齢者支援・健康づくり等の
諸問題に取り組む

地域・近隣で人・活動のつながりのあるまち

子育て世帯から高齢者まで地域交流でつながりを
図ることで支え合い・助け合いができ、
困りごとが解決できるまちをめざす

つながり

地域活動へ参加が進むまち

研修会・ホームページや広報紙を
有効に活用し諸活動の情報共有を図り、参加の
きっかけを作り担い手を集める

第３期計画　平成２８年～令和２年の振り返り

第３期福祉保健計画では、「人・和のあるまち緑園」をスローガンに活発な活動を展開し、各種団体と協働で大きな成果を上げることができた。又個別の活動は活発に行われたが、人や活動のつながりと担い手不足が第４期に向けた課題となった。

- ◆ 地域の交流は「ふれあい祭り」「ふれあいフェスティバル」「キッズフェスティバル」等子育て世帯から高齢者まで参加で定着。
- ◆ 子育て・高齢者サロンや居場所づくりは多く行われてきたが、団体間の連携と近場の開催要望があり今後継続課題となった。
- ◆ 健康づくりは関係部門の協力で「健康体操」「健康チェック」に多くの住民が参加した。拡大要望も多くさらに充実したい。
- ◆ 障がい者支援への取り組みも施設訪問やイベント支援が継続的に行われ、ボランティアの積極的協力で推進できた。
- ◆ 令和元年度後半から令和２年度は新型コロナ感染防止策に伴いほとんどの事業を中止する状況となった。

≪第４期≫ 緑園地区 地域福祉保健計画 課題と施策

※詳細は第４期実行計画による
◎印　第４期新規テーマ

活動全般

●広報活動の強化
　広報委員会設置と開催
◎住民アンケートの実施
　各種団体の担い手募集
　趣味・特技で活躍の場提供
●西小後利用福祉拠点活用
　子育て・介護などの福祉活動拠点

A：地域交流事業推進

●ふれあいチャリティフェスティバル
●室内ゲーム大会
●福祉ふれあい祭り
◎趣味文化的事業の開催
◎開催時住民アンケート実施と事業内容見直し

B：こどもと高齢者

●キッズフェスティバルの開催
●こども見守り活動支援
◎魅力ある居場所作りと
　情報交換会の実施
◎子どもと高齢者事業の検討
◎子育て協議会の設置
　キッズフェスティバルのメンバー兼務
◎防犯：見守り会議の開催
　　年間２回程度開催

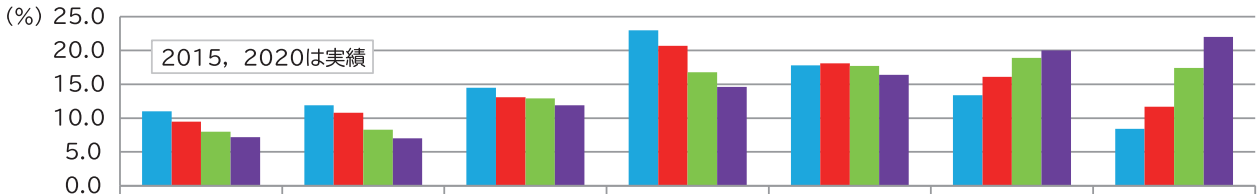
C：健康づくりと予防

●食事会の毎月１回開催
　さくらカフェ緑園
●健康体操の充実
　月間３回開催の継続
●地区社協研修会での開催
　健康づくり講座
◎ふれあい健康づくりの推進
　健康づくり委員会の設置
　ラジオ体操を近場の公園を活用し自治会と連携実施

D：支え合い・助け合い

●災害時要援護者支援
　自治会と協働で支援
●地区社協の拠点づくり
　常設の拠点設置
●障がい者支援活動
◎助け合いグループ活動検討
◎福祉の窓口の見直し
◎施設訪問先の見直し
◎災害時のマニュアル作り

緑園地区の「年齢層別人口」構成比推移（実績と予測）



	0～14歳	15～24歳	25～39歳	40～54歳	55～64歳	65～74歳	75歳～
2015(H27)	11.0	11.9	14.5	23.0	17.8	13.4	8.4
2020(R 2)	9.5	10.8	13.1	20.7	18.1	16.1	11.7
2025(R 7)	8.0	8.3	12.9	16.8	17.7	18.9	17.4
2030(R12)	7.2	7.0	11.9	14.6	16.4	20.0	22.0

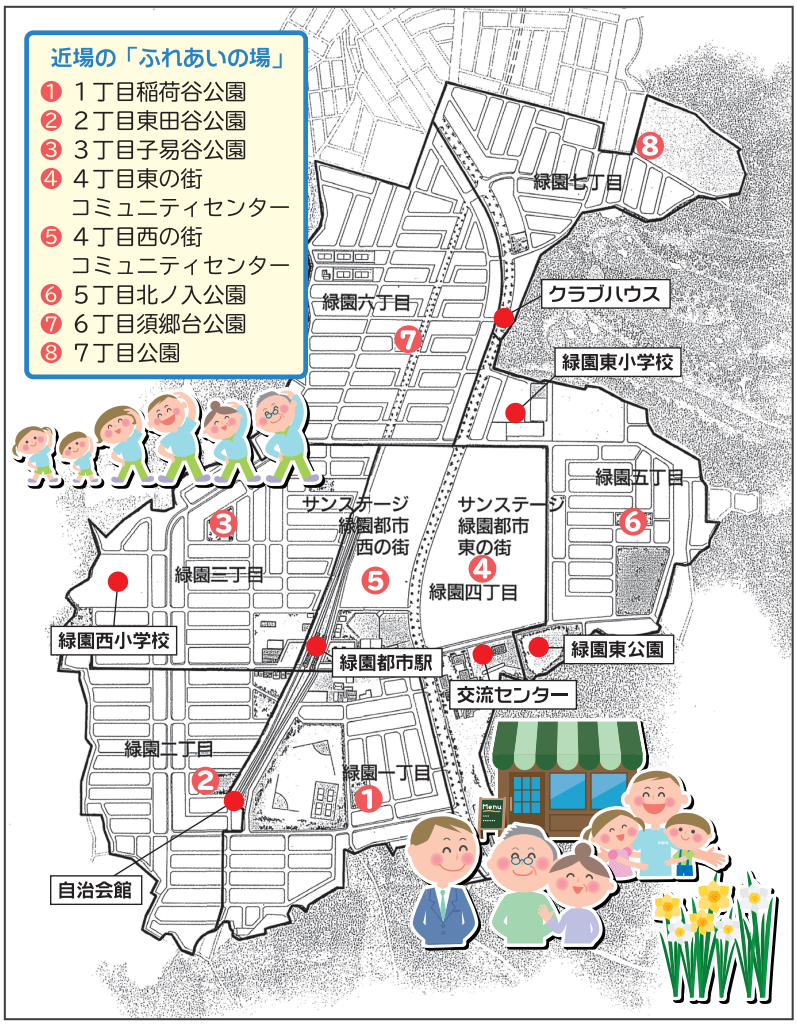
緑園地区における人口は、2020年３月末現在で5,926世帯で13,798人となっている。

また、65歳以上高齢者層の人口構成は５年前の2015年には21.8%であったが、2020年３月末には27.8%と高齢化が進み超高齢地域となっている。一方、24歳以下の若年層は20.3%に減少していてその後も減少傾向が続く。

泉区役所の人口推移想定によると、高齢単身世帯・夫婦のみ世帯が増加し世帯規模は縮小、子育て層と子どもが転出傾向にあるとしている。高齢者層は 2025年には人口12,126人に対し36.3%、2030年には42.0%と想定している。

これらのデータを見れば急速な高齢化（長寿化）対策は待ったなしであり、地域福祉の取り組みはさらに重要性が増している。第４期福祉保健計画は2025年を目標として取り組む。　（資料：2020年泉区統計情報及び2015年３月泉区役所「緑園地区の人口・年齢構成」による）

緑園社協は協働し近場でのふれあい健康づくりを進めます！



緑園地区集いの場

◆東の街「東花会」 60 歳以上高齢者会員の集い	東の街 コミュニティ センター
◆２丁目「井戸端会議」 自治会親睦の居場所	自治会館
◆西の街「水曜会」 自治会員の居場所	西の街 コミュニティ センター
◆５丁目居場所「つながり」 自治会員の交流の場	クラブハウス
◆緑園サロン 60 歳以上高齢者会員の集い	交流センター
◆南北緑友会 60 歳以上高齢者会員の集い	クラブハウス
◆民児協「ふらっと」 大人の居場所	交流センター
◆地区社協「食事会」 一人暮らしの高齢者対象	交流センター
◆「さくらカフェ緑園」 高齢者対象の食事提供	交流センター
◆子育て支援「ぐりん」 親と子の居場所	交流センター

上記「集いの場」に参加ご希望の方は緑園地区社協：090-3426-0294 にお問い合わせください。

＜策定＞
緑園地区社会福祉協議会
電話：090-3426-0294

＜事務局：緑園地区地域支援チーム＞
泉区福祉保健センター　電話：８００－２４３３
泉区社会福祉協議会　電話：８０２－２１５０
新橋地域ケアプラザ　電話：８１３－３８７７

基本理念

ぬくもりのある町しんばし

新橋地区がめざす町

❶ 助け合いのある町

困ったときに気軽に「助けて」と言える町をめざします。
子どもから高齢者まで誰もが声を掛け合って助け合える町をめざします。
自助・共助・公助に加え、近所で助け合う町をめざします。

❷ 見守りのある安心な町

子どもから高齢者まで見守りを行い、障碍があってもなくても、安心して暮らせる町をめざします。

❸ 楽しく健やかにすごせる町

元気に歳を重ね、心身ともにいつまでも楽しく健やかにすごせる町をめざします。

❹ 地域の活動を未来につなげる町

地域の活動を一緒に行う仲間を増やし、地域の活動を未来につなげる町をめざします。

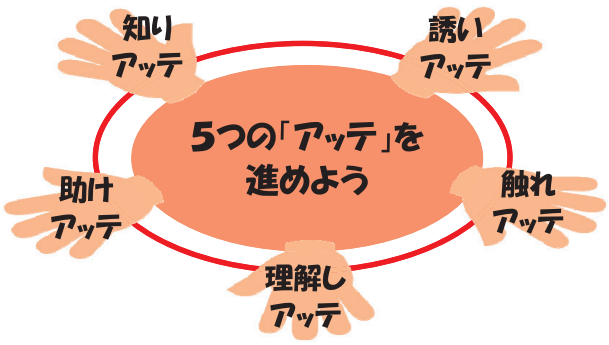
活動目標・具体的な取組

活動目標	第４期計画の取組（令和３年度～７年度）
【目標１】地域の活動を一緒に行う仲間を増やします。 ➡ めざす町 ❶、❷、❸、❹	• 第３期の活動を継続し、地域の自然にふれあう活動、趣味を生かした活動など、地域の親交に役立つ企画を開催します。 • 地域活動の担い手を増やす取組を進めます。
【目標２】子育て世代から高齢世代まで、多世代が交流できる場を提供します。 ➡ めざす町 ❶、❷	• サロン活動やこども食堂を継続し、より多くの方が参加しやすいように内容の充実を図ります。 • 普段からの声掛けが広がることをめざします。
【目標３】たくさんの人が健康づくり活動に取り組めるようにします。 ➡ めざす町 ❸	• サロン活動などの中で定期的な軽い運動や健康チェックを取り入れて、日常的な健康づくり活動の定着をめざします。 • 高齢者のフレイル（加齢による心身の衰え）予防に取り組みます。
【目標４】地域の情報を発信し、たくさんの人が参加できるようにします。 ➡ めざす町 ❹	• 地域情報が、誰でも見やすく手に取りやすくなるよう工夫します。 • 「新橋だより」の発行やホームページでの情報発信を継続します。 • 子育て世代がインターネットやスマートフォンでサロンなどの情報を収集できるようにします。

【策　定】新橋地区社会福祉協議会
【事務局】泉区役所福祉保健センター　Tel：（８００）２４３３
　　泉区社会福祉協議会　Tel：（８０２）２１５０　　新橋地域ケアプラザ　Tel：（８１３）３８７７

アッテ祭りのいわれ

泉区の地域ふれあい祭りの先駆けとして、
平成６年から「新橋アッテ祭り」を始めました。
祭りの名前の由来は、５つの「**アッテ**」が
テーマとなっているためです。



第３期計画での成果（平成 28 年度～令和２年度）

新規事業　竹炭をつくる会、コミュニティしんばし食堂、新橋自習クラブ、新橋ホームふれあい麻雀、助けあいぬくもり隊の活動を始めました。

目標１　地域の活動を一緒に行う仲間をふやします。

⇒地域の自然にふれあう活動として「新橋自然観察クラブ」、趣味を生かした活動として「ふれあいサロン寺子屋パソコン」「刃物研ぎ」「竹炭をつくる会」「新橋ホームふれあい麻雀」などを開催し、新しい仲間が集える場をふやしました。また「助け合いぬくもり隊」では、地域の支えあい・助けあい活動を行いました。

新橋ホームふれあい麻雀

刃物研ぎ

竹炭をつくる会

目標２　子育て世代から高齢世代まで、多世代が交流できる場を作ります。

⇒「世代ふれあいサロンしんばし※」「気軽にサロン」「カレーを食べる会」「新橋自習クラブ」などを開催し、世代交流が深まりました。また「コミュニティしんばし食堂」では、子どもから大人までのみんなの憩いの場ができました。

※「世代ふれあいサロンしんばし」は、子育てサロン・地域の方のつどいの場「しんばしカフェサロン」としてリニューアルオープンしました。

コミュニティしんばし食堂

気軽にサロン

新橋自習クラブ

目標３　地域の情報を発信し、たくさんの人が参加できるようにします。

⇒「新橋だより」の発行や、新橋連合自治会・泉区社会福祉協議会ホームページへの情報の掲載により、地域の活動を紹介しました。また「新橋地区社会福祉協議会30年史」を作成し、これまでの歩みについて情報発信しました。掲示板などの積極的な活用により、活動のチラシを多くの人に周知しました。

新橋連合自治会
ホームページ

第４期和泉北部地区地域福祉保健計画（令和３年度～７年度）

健やかで明るい，ふれあいのあるまち

※「地域福祉保健計画」は、地域の課題を地域で解決し、地域の支えあいによってだれもが安心して生活できるまちをつくるための計画です。

和泉北部地区ってこんなまち

- いずみ野駅周辺と日向山地区に広がる一戸建てやマンションの比較的新しいまちと和泉川沿いに広がる古くからのまちがあり、新旧の融合を感じるコミュニティです。
- 年少人口は泉区平均より少ないですが、生産年齢人口は多く、活気のあるまちです。
- 新旧融合の示す通り、夏祭りもいずみ野駅中心としたものと、地域に根差したものなどバラエティに富んだコミュニティです。
- 2016 年 10 月に開所した「いずみ野地域ケアプラザ」が新たな地域の活動拠点となり、活発な活動が展開されています。

この５年間，このまちでこんな声を聞きました

多くの人の参加を期待したい。深刻な担い手不足をなんとかしたい

困った人への声掛けをもっと積極的にやったらどうかしら

この地区は交通が便利なうえに、ケアプラザを拠点に情報発信やいろいろな活動ができ住みやすいまち

第３期計画（平成２８年度～令和２年度）ではこのようなことに取り組みました。

３つの柱（健康、交流、参加）に沿って様々な活動を展開しました。

バザーや敬老のつどいなど、地区社協の日頃の活動も円滑に実施しました。

ケアプラザを拠点に活動展開と情報発信に努めました。

各自治会の特徴や取組の情報共有に努めました。

ボランテイア団体同士の情報交換と交流を行いました。

私たちの地区では、令和３年度～７年度にかけて、こんなことに取り組みます！

健康

健やかで
安全なまち

目　標

- 地域ぐるみの健康づくり
- 健康へのお互いの気遣い
- 健康づくりの情報発信
- 地域安全へ取組

取　組

- 自治会、シニアクラブやサロンなどでの活動
- 身近な人への気づき
- 健康に関する勉強会やサロン活動などの情報発信（ＳＮＳの利用も検討）
- 様々なイベントでの防災、防犯の啓蒙

交流

一人ひとりに
優しいまち

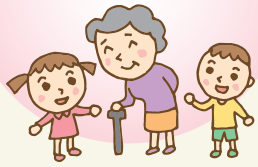
目　標

- 一人ひとりが声を掛け合うことで孤立を防ぐ

取　組

- 自治会、地区社協、民児協など各団体間で、特に一人暮らし世帯などの情報共有と見守り

参加



世代間の交流が活発で、
地域活動に関心が持てるまち

目　標

- 自治会や子供会、ボランティアなど団体同士の交流
- 地域活動への関心を持つきっかけ作りを通して、新たな担い手を獲得

取　組

- 活動の情報発信継続
- こども会同士のネットワーク構築支援
- 一人暮らし高齢者の方がサロンなどに安心して参加できる環境の整備
- 地域イベント等への参加
- ケアプラザなどでの情報発信

主な活動団体

自治会・町内会・こども会育成指導者連絡協議会・こども会・シニアクラブ・サロン・各ボランティア団体
保健活動推進員・スポーツ推進員・青少年指導員・地区社会福祉協議会・地区民生委員、児童委員協議会　など

（策定）和泉北部地域福祉保健計画推進委員会
和泉北部連合自治会
和泉北部地区社会福祉協議会

（事務局）泉区社会福祉協議会　TEL：802-2150 ／ FAX：804-6042
いずみ野地域ケアプラザ　TEL ／ FAX：800-0322
泉区役所福祉保健センター　TEL：800-2433 ／ FAX：800-2516

第４期和泉中央地区地域福祉保健計画（令和３年度～７年度）

誰もが楽しく安心して暮らせるまち

～元気が出るまち、和泉中央を目指して～

※「地域福祉保健計画」は、地域の課題を地域で解決し、地域の支えあいによってだれもが安心して生活できるまちをつくるための計画です。

目指すまちの姿

気軽に交流できる機会・場があるまち	お互い助け合い支え合うまち	みんなが健康で楽しいまち	地域の担い手が育つまち

基本理念　人と人のつながりを大切にし、支え合えるまちづくり

和泉中央地区の現況

今後５年間の人口は緩やかに減少していく傾向にあります。また40歳代をピークに60歳代後半の年齢の方も多く住んでいますが、75歳以上の後期高齢者の増加も続き、高齢者のみ世帯、単身者世帯なども増えるなか、地域活動への参加をためらう傾向が高まってきています。

私たちは、人とのつながりが希薄化するこれからの時代を迎えるにあたり、これまで以上にご近所どうしで支え合いを強めると同時に、地域社会の中で人と人のつながりを大切にした活動に真剣に取り組んでいく必要があります。

和泉中央地区の地域活動のあゆみ

第3期計画（H28～R2）策定時の地域の特徴と課題

○高齢化が進むとともに高齢者所帯、一人暮らし所帯の増加

課題　居場所づくり、支え合い活動、見守りネットワーク、健康づくり

○いずみ中央駅周辺のマンションの増加に伴う若い世代が増え、子どもの数が増えている。

課題　子育て支援、青少年の健全育成、地域の教育力の活用、子供会活動の停滞

○地域連帯意識、ふるさと意識が希薄になりつつある

課題　世代間交流の推進、地域行事への参加、町内会活動の活性化

○都市化が進展している

課題　安心、安全、清潔な「まち」づくり　高齢者や障がい者が暮らしやすい「まち」づくり

地域活動の取組と成果（第１期～３期をとおして）

居場所づくり　身近な居場所が増え、交流の場が広がりました

○「いこいの家」(H21～)：誰もが気軽に立寄れる交流の場。
○「高齢者サロン」(H16～)：11自治会・町内会で開催。
○「十日会」：30年の歴史をもつ一人暮らし高齢者向けの食事会。

支え合い、見守り　助け合い、新しい見守り活動が生まれています

○「ふれあいヘルプ」(H24～)：手助けが必要な高齢者への助け合い活動。
○「新しい見守り活動」(H26～)：地域の協力による、高齢者見守り活動。

健康づくり　身近で参加できる教室が増えています

○「体操教室」(H19～)：９自治会・町内会で開催。（中央地区４教室）

子育て支援、青少年の健全育成、地域の教育力　活動が広がっています

○「子育てサロン」(H18～)：子育て中のお母さん方の交流の場。
○「和泉川クリーンアップ」：大人と共同の清掃活動は、子どもが地域を見つめ直す機会となっている。
＊青少年の健全育成、地域の教育力の活用は、連合自治会、各自治会・町内会、学校との連携で進められてきている。（子どもの居場所づくり、ハマロード等）

世代間交流の推進、地域行事への参加　交流の場が広がりました

○「ふるさとまつり」(H21～)：地区最大、多世代交流の場として定着。
○「さくらまつり」(H24～R1)：小中学生の成長を祝って卒業生を招待。
＊各自治会・町内会で、交流のために、年間をとおし多くの行事を実施。

安心・安全な、高齢者 障がい児・者も暮らしやすいまちづくり

○安心・安全なまち：連合自治会、各自治会・町内会活動（防犯パトロール 等）
○障害者施設との交流：各自治会・町内会行事への参加。（お祭り、防災訓練 等）
地区社協との定期交流、散歩の会　等。

和泉中央地区は、さまざまな分野で活発な活動を行っています。
今後、さらに「人と人のつながり」を大切にして、取組を充実発展させていきます。

第４期計画（令和３年度～７年度）

５年後の目指す姿	地域活動における主な取組	私たちに出来ること（個人・家庭）
気軽に交流できる機会・場があるまち （いこいの家）	**目標　誰もが楽しく参加できる機会をつくります** ○ふるさとまつり　○いこいの家　○お花見の会 ○子育て支援（子育てサロン、公園遊び 等） ○高齢者サロン　○十日会　○シニアクラブの活動 ○障がい児・者との交流（散歩の会 等） ○連合自治会、各自治会・町内会の事業（体育祭、夏祭り 等）	**目標　活動やイベントに参加しよう** ＊地域情報のキャッチ ＊誘い合って参加 ＊こどもからお年寄りまで交流 ＊出会いを大切に
お互い助け合い支え合うまち （ふれあいヘルプ）	**目標　身近な助け合い・見守り活動を推進します** ○ふれあいヘルプ ○新しい見守り活動 ○連合自治会、各自治会・町内会の事業 （交通安全運動、防犯パトロール、防災訓練 等） 	**目標　ご近所どうしで支え合おう** ＊近隣とのつながりを深める ＊チョッとした気遣いが出来る関係づくり
みんなが健康で楽しいまち （健康体操教室）	**目標　心も身体もすこやかにすごせる取組を進めます** ○健康体操教室 ○健康講座等の情報発信 （ノルディックウオーキング 等） ○連合自治会、各自治会・町内会の事業 （親子ドッヂボールなどスポーツ大会 等） 	**目標　健康意識を高めよう** ＊健康情報のキャッチ ＊健康を意識する生活 ＊交流の場へ積極的に参加
地域の担い手が育つまち （和泉川クリーンアップ）	**目標　地域への愛着が生まれる活動を推進します** ○お花見の会 ○和泉川クリーンアップ ○連合自治会、各自治会・町内会の事業（青少年健全育成事業 等） ○学校との連携	**目標　地域活動に小さい頃から触れさせよう** ＊行事への参加（祭り、体育祭 等） ＊こども会への参加

＊「立場地区センター」「中和田コミュニティハウス」は、私たちの交流の場として地域活動の一翼を担っています。

地区経営委員会

掲載した内容についてのお問合せ・ご意見・ご感想等がございましたら、下記までお寄せください。
泉区社会福祉協議会 Tel. 802-2150 / いずみ中央地域ケアプラザ Tel. 805-1700 / 泉区役所福祉保健センター Tel. 800-2433

第４期下和泉地区地域福祉保健計画（令和３年度～７年度）

みんなが支え合い，安心して健康に暮らせるまち

※「地域福祉保健計画」は、地域の課題を地域で解決し、地域の支えあいによってだれもが安心して生活できるまちをつくるための計画です。

＼目指すまちの姿／

みんなが支え合い，安心して健康に暮らせるまちを目指します。

下和泉地区の概況

立場、湘南台の駅を利用する人が多い。バスで駅に出ないと歩くのは少々困難。大きな病院がないことから、横浜医療センターまで足を運ぶ人が多い。

いずみ中央駅への公共交通機関の便が良くないことから、泉区役所、泉公会堂等を利用したイベントへの参加者が少ない。

スーパーはイトーヨーカドーや生協を利用している。

連合町内会の行事として、サマーフェスティバル、敬老会、体育祭などがある。令和２年度は、新型コロナウィルス感染症拡大防止の観点から、ほとんどの行事が中止となっている。

地域に障がい者の通所施設は存在しないが、生活の場であるグループホームは多い。

地域課題 担い手が高齢化、また重複化しており、世代交代が進んでいない。

第４期計画の取組計画（目標，取組内容）

目標 健康づくりに取り組もう！

取組内容

- ○ 健康づくりを支援する「健康講座」や「健康チェック」を通して、地域の皆様の健康維持に努めます。
- ○「健康ウォーキング」等を通して、地域の自然を生かした住民の健康づくりを支援します。
- ○ 健康体操（ハマトレ、ラジオ体操など）、「お散歩ビンゴ」など、楽しみながら災害時にも家庭でできる体操や運動を提案します。

目標 支え合おう！助け合おう！

取組内容

- ○ 一人暮らし高齢者の方に食事会を提供する「八日会」の取組みや、高齢者世帯のちょっとした困りごとをお手伝いする「役立ち隊」の活動を通して、高齢化する地域の課題に取り組みます。
- ○ 入園前の幼児を持つ保護者の方々の交流の場である「子育てサロン」を毎月開催することにより、子育てを支援します。
- ○「八日会」と「子育てサロン」、さらには小学生、中学生とのコラボレーションを通して、支え合い、助け合いの多世代交流、意識啓発に努めます。

目標 広めよう！つなげよう！つながろう

取組内容

- ○ 広報誌「ほたる」の発行等を通して、下和泉地区社会福祉協議会の活動のご紹介に努めます。
- ○「支え合い、助け合い」の標語を小学生、中学生、地域住民から募集し、入選作品を掲示することを通して、支え合い、助け合いの啓発に努めます。
- ○「下和泉ハロウィン」等を通して、幼児、小学生、地域の方々の多世代交流に努めます。

第３期計画の取組と成果

健康づくりに取り組もう

取組

健康講座
- 健康講座と健康チェックを年２回開催

健康ウォーキング
- 歴史と文化に触れるウォーキング（年３回）
- 健康ウォーキング一覧表の作成発行（平成 29 年度）

成果

健康講座
- 参加者も徐々に増え、男性の参加者も少しずつ増えている。
- 自己診断の数値が記入できる「私の健康ファイル」を配付し参加者の健康意識が高まった。
- 健康づくりポイントを導入し、リピーターの増加に繋げた。また、開催日を工夫し、参加者の増加に繋げた。

健康ウォーキング
- 保健活動推進員と連携して実施し、参加者の増加に繋げた。また、他の地域からの参加者もいた。
- ウォーキングに参加することにより、健康増進に対する意識が高まり、万歩計を携行し、仲間同士、或いは独自でコースを選んで歩く者も出てきた。

地域で子どもをはぐくみ、成長を見守ろう！ 地域の行事や活動等を広げよう！盛り上げよう！

取組

八日会
- 一人暮らし高齢者のための食事会を年７回実施。

子育てサロン
- 入園前の親子の交流の場である子育てサロンを毎月第１、第３水曜日に実施。

新下和泉音頭の普及
- 新下和泉音頭を復活させ、サマーフェスティバルで披露。

下和泉ハロウィン
- 令和元年度から小学生、幼児が地域の施設や公園を回ってお菓子をもらう取組みを始めた。

成果

八日会
- 子育てサロン、コーヒーサロン、小学3年生との多世代交流を実施した。

子育てサロン
- 子育てネットワークを通して、ここでも「多世代交流」が進んだ。

新下和泉音頭の普及
- 新下和泉音頭を復活させサマーフェスティバルで披露し、地域への愛着を深める一助とした。

下和泉ハロウィン
- 子ども達が地域の施設や公園を回って大人からお菓子をもらい、子ども達と住民、施設の方々との交流が進んだ。幅広い世代の交流が実現できた。

助け合える関係づくりを進め、活動を充実させよう！

取組

広報誌ほたるの発行
- 「ほたる」を年４回発行。町内で回覧し、町内掲示板に掲示。

役立ち隊
- 65歳以上の高齢者や障害のある方などを対象に、ちょっとした困りごとのお手伝い。

標語による啓発活動
- 小中学生等から募集した「支え合い、助け合い」の標語から優秀作品を選定。

活動団体との懇話会の実施
- 町内会長、町内の活動団体、小中学校長、地区社協の理事が集まり、テーマを決めて地区の課題解決について話し合った。

成果

広報誌ほたるの発行
- 写真を増やすなどして、読みやすさを追求し、地区社協の活動の紹介を行った。

役立ち隊
- 家具の移動・窓拭き・蛍光灯交換、草むしりなど、年間20～30件の依頼に対応。

標語による啓発活動
- 小中学生や地元の皆様から「支え合い、助け合い」の標語を募り、入選作品を地域の各家や中学校、保育園等の塀などに掲示した。支え合い、助け合いの意識の向上を図ることができた。

活動団体との懇話会の実施
- 令和元年度は防災をテーマに講話、事例紹介、協議を実施した。防災においても、向こう三軒両隣のコミュニケーションが重要であるとの認識で一致した。

下和泉地区社会福祉協議会

地域支援チームの問合せ

泉区役所福祉保健センター：045（800）2433、FAX 045（800）2516
泉区社会福祉協議会：045（802）2150、 FAX 045（804）6042
下和泉地域ケアプラザ：045（802）9920、FAX 045（802）9927

第４期富士見が丘地区地域福祉保健計画（令和３年度～７年度）

ご近所どうしで助け合い 安全・安心・快適なまちづくり

※「地域福祉保健計画」は、地域の課題を地域で解決し、地域の支えあいによってだれもが安心して生活できるまちをつくるための計画です。

めざすまちの姿

- 安全・安心なまち
- ご近所同士の声かけ
- 顔見知り、みんなが仲良く
- 子育てしやすい
- 誰もが安心して地域活動に参加できる

今後、５年間の目標と取組です！

目標1 地域活動に参加するきっかけを作ろう

- 誰もが参加しやすい行事を企画し、広報活動に力を入れます
- 趣味を活かした交流の場を作ります
- 地域であいさつの輪を広めます

目標2 災害時に強いつながりを作ろう

- いざという時の備えとして、何が必要かを伝え、広めます
- 災害時の備えや対策について隣近所で話ができるよう意識啓発を行います

目標3 身近な場所で健康づくりを進めよう

- 健康寿命を延ばす取組を行います
- 散策マップを活用して、富士見が丘地区の魅力を伝えます

目標4 地域の中で「障がい」に対する理解を深めよう

- 福祉施設と一緒に楽しめるような場所や機会を作ります
- 障がい児・者についての理解を深められるよう工夫します

目標5 地域で子育てを応援しよう

- 成長段階にあわせた子育て支援を行います
- 子育て（サロン、サークル、ネットワーク連絡会）の活動を支援します

目標6 高齢者が生きがいをもてるようにしよう

- 身近で気軽に集える機会を増やします
- 介護について考える機会を増やします

富士見が丘地区の概　況

・緑が豊富で自然環境豊か。またその環境を生かした活動が活発。
・福祉施設が多くあり、地域とのつながりづくりが進められている。
・「福祉の会」、子育てサロン、高齢者サロン、健康づくりなどご近所同士の助け合いの輪が広がっている。
・地域とのつながりが深いと感じている人が多い（区民意識調査結果より）
・健康づくりに対する意識が高い地区である。
・地区の高齢化率は 32.66%（R1 年 9 月時点）

第３期富士見が丘地区地域福祉保健計画
過去５年間（平成 28 年度～令和２年度）に取り組んできたこととその成果です！

①自然豊かな地域の特性を生かした活動（どんど焼き、案山子コンテスト、オセロ大会、ホタル観賞など）が盛んに行われてきました。

②災害時要援護者の取組として、顔見知りの関係づくりの大切さを伝えることを続けてきました。

③ウォーキングや健康測定を実施し健康寿命への意識を高めることができました。またウォーククラブでは年間の活動計画を立てて、実施してきました。

④推進委員会などを通して、地域の障害者施設の紹介と交流を行ったり、中学生が参加して貴重な意見が出るなど交流が行われました。

⑤中学生と親子が交流できる場を設けるなど、子育てネットワークと連携し様々な行事に参加しました。

⑥サロン活動では高齢者も担い手も楽しみながら交流が持てました。また、ふれあい忘年会では泉サポートプロジェクトによる送迎を実施しました。

「介護者のつどい」を年に２回ほど開催し、現在介護で悩まれている方や今後の介護に不安のある方が気楽にお話できる場を提供しました。

パンフレット集

活動団体を紹介したパンフレット集（右上写真）。参加者や支援者を増やし、毎年、改訂をしています。現在、掲載は 76 団体になりました。団体を紹介するパネルは、毎年富士見が丘まつりで展示しています（左上写真）。また、年２回の推進委員会では、お互いの活動を振り返り、交流を深めてきました。

【お問い合わせ】
富士見が丘地区地域福祉
保健計画推進委員会

＜事務局＞　泉区役所福祉保健センター　／　泉区社会福祉協議会　／　下和泉地域ケアプラザ
TEL：800-2433　TEL：802-2150　TEL：802-9920
FAX：800-2516　FAX：804-6042　FAX：802-9927

第４期上飯田地区地域福祉保健計画（令和３年度～令和７年度）

みんな仲間のまち 上飯田

～あいさつと笑顔とやさしさと～

目指す５年後のまちの姿

人とのふれあいを大切にし、長く住みたいと思えるまち

多くの住民がボランティアや地域活動に参加している

緑を残しながら、みんなが伸び伸び安全に過ごせる公園や場所がある

誰もが防災訓練などの地域行事や学校行事に参加している

第４期計画の具体的な取組

1 安心・安全・環境にやさしいまちにします

- 誰もが集える場所「上飯田ふれあい広場」を活用し、交流の場が広がるように周知します
- 「災害時要援護者支え合い事業」を広めます
- 災害に強いまちを目指し、災害に備えた取組を行い、防災訓練への中学生の参加を呼びかけます
- 町内の防犯パトロールを継続します（障害者支援施設松風学園も協力）
- 緑のまちづくり活動など、環境整備活動を継続します
- 「上飯田ワイワイ仲間」で悪徳商法・振り込め詐欺防止などのPR寸劇を実施します

2 支え合い・助け合うまちにします

- 高齢者、障がい者、介護者、子育て中の人をサポートする「お助けクラブ」について、利用促進や新しい仲間の募集のため、活動をPRします
- いつまでも健康で暮らせるよう「健康体操」や「脳いきいき教室」などの健康づくり活動を継続します
- 認知症になっても安心して暮らせるまちを目指して、心がつながる活動に取り組みます
- 地域の福祉施設利用者との交流を継続します
- 福祉施設と連携し、体が不自由な方への移動支援や居場所の提供につなげます
- ふれあいサロンを継続し、活動をPRします

3 世代間交流の場を増やします

- 小・中学生を含めた若い世代も地域活動（連合主催の運動会などの行事や会議）に参加しやすい環境を整えます
- 地域清掃や軽スポーツ大会などへの参加を通して仲間を増やします
- 「上飯田子育て支援ネットワーク連絡会」の活動を充実させ、パパ・ママ（子育て世帯）を応援します
- ご近所との顔の見える関係づくりや、小・中学生との交流（あいさつ・声かけ運動）を継続します
- 地域で活動する青少年グループを応援します
- あやめ祭りや上飯田文化展など地域の行事を継続して実施します

第3期計画（平成28～令和2年度）の成果

安心・安全・環境にやさしいまち

- 誰もが集える身近な居場所として「上飯田ふれあい広場」を開設し、地域の活動団体に利用していただきました。
- 各自治会で自主防災訓練を行い、中学生も参加しました。
- 上飯田連合自治会で合同パトロールを年3回実施しました。また、松風学園も平日のパトロールに参加しました。
- 「みどりと花の会」では、公園や学校周辺の花植えや清掃など、地域の環境整備に力をいれました。
- 「上飯田ワイワイ仲間」では、悪徳商法・振り込め詐欺防止の啓発活動や地域の活動情報の紹介をしました。

支え合い・助け合うまち

- 「お助けクラブ」では、草取りや枝落としなど、高齢者、障がい者、介護者、子育て中の人を対象に支援を行いました。
- 「健康体操」「脳いきいき教室」などの健康づくり活動や、小・中学生向けの認知症サポーター養成講座などを行いました。
- 上飯田地区ではサロンなどが多く開催され、ご近所同士のつながりができ、参加者も増えました。

世代間交流の場を増やす

- 地域のお祭りや連合主催の運動会、清掃活動といったイベントに幅広い世代の方が参加しました。
- 地域福祉保健計画の会議へ中学生が参加しました。
- 「上飯田子育て支援ネットワーク連絡会」「パパママ応援隊」などの子育てを応援する活動を行いました。
- あいさつ運動を継続し、以前よりも小・中学生からのあいさつが増えてきました。

※令和2年度はコロナ禍においても、工夫しながら地域活動に取り組みました。

上飯田地区はこんなまち

- 南北に長く、田畑が多い、緑豊かなまち
- あやめ祭りやどんど焼きなど、様々な伝統を受け継ぐ地域行事がある
- 世代間交流の場が多い
- 福祉施設が多く、地域と連携した支援活動が盛ん
- 様々な支え合い活動（お助けクラブなど）がある
- 地域に住み続けたいと思う人が多い

【発行】上飯田地区地域福祉保健計画推進委員会 【編集】上飯田ワイワイ仲間

＜事務局＞

泉区役所福祉保健センター	泉区社会福祉協議会	上飯田地域ケアプラザ
電　話：800－2433	電　話：802－2150	電　話：802－8200
FAX：800－2516	FAX：804－6042	FAX：802－6800

「上飯田ワイワイ仲間」とは・・・

地域住民が主体となり、上飯田地区の地域福祉保健計画を推進するボランティア団体で、地域活動の紹介や地域の福祉や保健活動を行っています。

第４期上飯田団地地区地域福祉保健計画（令和３年度～７年度）

支え合い、安心して暮らし続けることができる

上飯田暖地

【上飯田団地ってこんなまち】

- 市営住宅42棟と市営上飯田第２住宅で形成されています。
- 人口1,749人、うち65歳以上高齢者1,143人で高齢化率が65.4%と泉区で一番高く、年々増加しています。（令和３年３月時点）
- 支援の必要な一人暮らしの方や障害のある方が多くお住まいです。
- 地域活動の担い手が少なく、役員が何役もかねて活動しています。

めざすまちの姿

上飯田団地地区では、上飯田団地連合自治会や上飯田団地地区社会福祉協議会、民生委員、児童委員、保健活動推進員等が中心となり、「大切にしよう『お元気ですか』声をかけあう関係づくり」を合言葉に見守り活動に取り組んでいます。

第４期計画の具体的な取組

- 定期清掃や階段単位での日頃のみまもり活動を継続します
- 明るいあいさつ・声掛けを行います
- 高齢者の居場所づくりやお祭りなどのイベントを継続します
- 上飯田団地連合自治会・上飯田団地地区社会福祉協議会・民生委員等による「見守り会議」を継続します
- 防犯・防災活動を行います

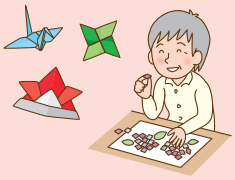
サロン活動の紹介

上飯田暖地コミュニティ・カフェ

内容：交流会（お茶のみ、塗り絵、カラオケ等）
場所：上飯田団地第１集会所
日時：毎週水曜日
　　10時～15時
※ 年４回（６・９・12・３月）は「いきいきサロン」として上飯田地域ケアプラザが主催

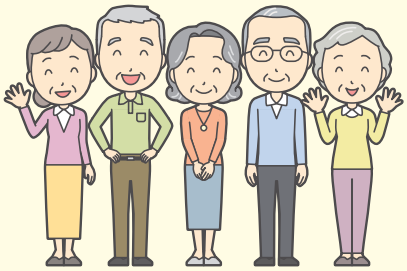
さわやか脳トレーニング

内容：やさしく・楽しく脳いきいき
　　（体操・言葉遊び等）
場所：上飯田地域ケアプラザ
日時：第４土曜日
　　10時～11時30分



上飯田団地高齢者食事会

内容：70歳以上の方の食事会
場所：上飯田団地第１・３集会所
日時：毎月第２月曜日
　　11時30分～13時
※ 来られない方には自宅にお弁当をお届けしています。



単一自治会でのサロン活動

第１自治会　ふれあい健康クラブ

カラオケの会：第２土曜日　14時～16時
紙ねんど工作：第３日曜日　10時～12時
場所：第２住宅集会所

第11自治会　陽だまりの会

内容：おしゃべり、フラワーアレジメント等
場所：上飯田団地第３集会所
日時：第３水曜日　10時～12時

第３期計画の取組
（平成28年度～令和２年度）

- 見守り推進会議を組織化し、地域の見守り活動の報告、情報共有及び意見交換の場として、年４回「見守り会議」を実施しています。
- 団地内の定期清掃で、「掃除は月１度大切にしよう『お元気ですか』のよい機会」を合言葉にして、あいさつを交わしたり、回覧やちらしの掲示での声掛け、熱中症予防の訪問などの見守りや安否確認を行っています。さらに、区内で高齢化が一番進んでいるため、一人暮らし高齢者等の見守り活動も行っています。
- 多くのサロン活動が行われており、参加を通じて交流が図られ、見守りにつながっています。
- 防犯・防災活動、環境美化活動（清掃・緑化）が進み地域の支え合いにつながっています。
　⇒これまでの取組が根付き、日頃からの見守り活動の意識が高い地域となりました。

【策定】上飯田団地地区社会福祉協議会・上飯田団地連合自治会
お問い合わせ〈上飯田団地地域支援チーム〉
泉区役所 福祉保健センター　TEL：800－2433　FAX：800－2516
泉区社会福祉協議会　TEL：802－2150　FAX：804－6042
上飯田地域ケアプラザ　TEL：802－8200　FAX：802－6800

第４期いちょう団地地区地域福祉保健計画（令和３年度～７年度）

こんにちは　你好　Xin chào

みんな笑顔で支え合うまち
いちょう団地地区

いちょう団地地区の目指すまち

みんなが地域を知り、みんなで支え合うまち

みんなが活動の場に参加できるまち

多文化共生ができるまち

第４期計画の目標・取組

目　標
互いに見守り、支え合う活動を推進します

取　組

- 買い物支援など、みんなで声をかけ合い、支え合う活動を継続します。
- 子どもを見守る活動を、学援隊や保護者、地域のみんなで協力していきます。
- 高齢者・障害者の疑似体験や災害対策の学習会など、地域での支え合いや福祉を学ぶ機会をもちます。
- 地域での見守り、災害時に備えて、助け合えるまちづくりを地区全域に広めます。

目　標
国籍や年齢に関係なく、誰もが地域活動に参加できるよう支援し、担い手の発掘につなげます

取　組

- 地域活動団体の情報を広報紙などでＰＲし、参加者や担い手を広げます。
- 誰もが楽しく気軽に集まれる居場所（サロンなど）を提供します。
- 健康の保持・増進のため、いちょう団地ふれあい福祉祭りやサロン（体操教室）などで健康づくり活動を充実させます。

目　標
多文化交流を進め、外国につながる人々を支援します

取　組

- いちょう団地祭りなどのイベントをはじめ、日常的な関わりの中で、多文化交流を継続します。
- 外国につながる人達も大掃除などの地域活動でコミュニケーションを図れるようにします。
- 外国につながる人が、日本語を学べる機会（日本語教室など）を持ち、地域活動に参加できるように支援します。

【策　定】いちょう団地地区社会福祉協議会
【問合せ】泉区役所福祉保健センター、泉区社会福祉協議会、上飯田地域ケアプラザ
電話　800−2433　　電話　802−2150　電話　802−8200

第３期計画の成果

- 地域の支えあいをテーマに講演会を実施し、担い手確保のために「地域生活に関するアンケート」を全世帯に行いました。いちょう団地ふれあい福祉祭りでは、より具体的な内容のアンケートを実施するなど、地域活動の活性化を目指しています。
- 地域での見守りや防災に備えて、「支えあいマップ」を一部地域で先行的に作成し、活用を始めています。
- サロン活動は脳トレなど、新しい企画を取り入れながら継続しています。
- 小学校で高齢者疑似体験などを行い、地域での支え合いについて学ぶ機会が増えました。
- 保育園で昔ながらの遊びや季節ごとのお楽しみ会を行い、交流が広がりました。
- あいさつをすることで近隣が意識し合えるようになり、新聞がたまるなどの変化に気づいて助け合うことも進みました。
- 旧いちょう小学校での地域防災拠点訓練の際に、安否確認票を用いて、支援が必要な人や外国につながる人などの状況を把握し、災害時に安否確認が行えるようにしています。

いちょう団地はこんなまち

- 県営住宅が48棟あります。居住者数3,690人、入居世帯数1,880世帯、60歳以上の単身高齢者世帯608世帯、外国籍世帯439世帯（令和２年４月１日時点）
- ひとり暮らし高齢者や障害者、外国につながる人など、さまざまな支援を必要とする人が暮らしています。
- いちょう団地ふれあい福祉祭りやいちょう団地祭りなど、様々な地域のイベントがあり、外国につながる人も参加しています。

いちょう団地地区での活動紹介

町ぐるみ健康教室

「自分の健康は自分で守る」ための
健康チェック、ストレッチ、リズム体操など
- 第２・４ 木曜日
- 13：00～15：00
- いちょうコミュニティハウス

町ぐるみ健康教室　体育祭の様子

ふれあいサロン

カラオケ、脳トレなど
- 第２ 日曜日・金曜日
  第４ 火曜日・金曜日
- 13：00～15：00
- 第１集会所

脳いきいき教室

体操、脳トレ（音読・100マス計算）など
- 第２・４ 月曜日
- 13：30～15：00
- いちょうコミュニティハウス

いちょうサロンの様子

いちょうサロン

小物作り、バス旅行、健康講座など
- 第３ 木曜日
- 13：30～15：00
- いちょうコミュニティハウス

転倒骨折予防教室

転ばない身体づくり。ストレッチ、体操など
- 第１ 月曜日
- 13：30～15：00
- いちょうコミュニティハウス

転倒骨折予防教室の様子

いちょうの会

70歳以上のひとり暮らしの方対象の食事会
- 概ね毎月１回　日曜日
- 11：30～12：30
- 第２集会所

第４期中田地区地域福祉保健計画（令和３年度～７年度）

みんなで支え合い、ともに助け合う（まち）中田

中田活き活きプラン

地域福祉保健計画は、地域の課題を解決し、地域の支えあいによって
誰もが安心して生活できるまちづくりを積極的に推進します。

中田ってこんなまち！

- 自然が豊か。緑も多く気持ちの良いまち。
- 高齢者サロンや健康づくりの活動が活発で、顔の見える関係が増加。
- 子育てのネットワークが盛んで、子育て支援が充実。乳幼児の子育てがしやすい地域。
- 地下鉄や幹線道路の整備が進み発展し、住民が増加。
- 障害者の施設が多く、日常的に障害者の人と地域の人があいさつを交わす関係がある。

自然が豊かで、地域活動が盛んな住みやすいまち

近ごろ暮らしの中で気になること

○高齢化で売却した土地に若い世代が多く転入 ・地域と関わりを持ちたいと思っているがきっかけがない ・生活が大変で地域への協力がなかなかできない ・町内会役員の世代交代も工夫が必要	➡	近所づきあいの希薄化 町内会活動の活性化が必要 （担い手の確保）
○中田地区の子ども達は全国的にも高いレベルで地域活動に参加しているが、学齢期の子どもの貧困など社会的な問題については地域に見えてきていない。	➡	学齢期の子どもの問題
○交通の便が悪く、移送サービスがない ○近所の小さなお店が無くなった。 ○坂の上に住む高齢者は帰りの買い物が重くてつらい	➡	買い物が不便な住民への支援が必要
○隣近所で困りごとを相談できない ○介護で困った時の相談先（ケアプラザなど）の周知など、情報伝達の工夫が必要	➡	困りごとニーズをキャッチ、マッチングする仕組みがほしい
○高齢になって足腰が弱くなり、外に出ない ○高齢者の引きこもりで孤独死が心配 ○家族は認知症に気付きにくい。	➡	健康寿命を延ばす必要がある （高齢になっても元気で暮らす）

目指すまちの姿

- みんなが声かけあって健康で活力があふれているまち
- 地域のすべての人がつながり，活躍できるまち
- みんなの小さな声をひろい，支え合い（つながり），安心して住み続けられるまち

第４期計画の目標と取組内容（中田がこんなまちになったらいいな）

目標１　あいさつ・声掛けで顔見知りになることからはじめよう！

取組内容
- 向こう三軒両隣の関係を深め、近所づきあい、近所の見守り活動を推進します。
- 支援を必要としている人（自ら言い出せない人）に根気よく声掛けしてつなぎます

目標２　身近な場所で健康づくりを進め、健康寿命を延ばそう！

取組内容
- 次のような地域の資源や場を活かしながら、地域全体で健康づくりが進むよう、普及啓発を行います。
  - 市民の森などの自然を活かした健康づくり
  - シニアクラブへの加入促進及び加入後のラジオ体操などによる健康づくり
  - 高齢者サロンなど、高齢者の居場所づくり

目標３　地域の様々な情報を積極的に発信・共有しよう！

取組内容
- SNSやHPの活用、スマホを活用した情報伝達を進めます(情報ネットワークでつながるまち)。
- 町会の中の取組を他の町会へも広げていきます（情報共有）。
- 地域活動の情報（各種サロン、交流の場等）や防災・避難所の情報など、必要な人に必要な情報が行き届くようにします。

目標４　多様なつながりの中でみんなのチカラを集め、活かしあおう！

取組内容
- 若い人の意見（企画）も取り入れながら地域活動をすすめていくことで、次の担い手の確保につなげます。
- 異世代交流ができる仕掛けづくり（イベント等）を積極的に行います。
- 地域の役員とともに、高齢・障害・こども・援農など多様なボランティア活動者や地元の商店などにもまちづくりに参加してもらい、住民参加を広げます。
- ちょっとした困りごとを地域で助け合える関係づくりを進めます。

目標５　住民の暮らしの変化や地域に求めていることをしっかりキャッチしよう！

取組内容
- まちのこと、暮らしのことを何でも話しあえる場をつくり、「中田の今」を共有します。

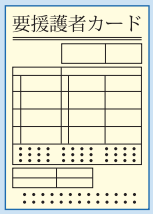
第３期計画（H28～R２）の取組と成果

高齢者サロン活動

顔の見える関係が増え、情報の収集や助け合い等の支援につながっています。

地域の見守り活動

要援護者カードを配布し、一定の情報を集めることができました。また、中田地区としての助け合い組織の設立に向けて検討していきます。



親子サークル支援

子育てサークルの母親を対象としたアンケートから、子育ての悩みや地域の人にサポートしてもらえたらありがたいと思っていることなどがわかりました。

公園遊び

「点」から「面」の活動へ拡がってきています。シニアクラブの皆さんなど多くの方々と連携しながら、今後さらに取組を進めていきます。

障がい理解のための出前講座

様々な障がいのある人の理解を進めていくため、障がいのある人や家族が自ら発信する出前講座を開催しました。地域で暮らし、活動する障がいのある人と、そこに暮らす住民との交流を図るための取組を拡充していきます。

中田地区地域福祉保健推進委員会

（問い合わせ先）泉区役所福祉保健センター　TEL 800-2433
泉区社会福祉協議会　TEL 802-2150
踊場地域ケアプラザ　TEL 801-2920

第４期しらゆり地区地域福祉保健計画（令和３年度～７年度）

ほどよく つながる 楽しいまち “しらゆり”

※「地域福祉保健計画」は、地域の課題を地域で解決し、地域の支えあいによってだれもが安心して生活できるまちをつくるための計画です。

＼目指すまちの姿／

みんなが声かけあえる **お**互いに支えあえる
心地よく暮らせる **ま**ち

地区の概況

戸塚区に隣接する戸建住宅中心の住宅地で、人口5,800人の小規模ながら、公園・プールなどの施設があり、暮らしやすい緑豊かな地域。坂が多く起伏に富んでいます。

地区の活動拠点となる施設は・・・ しらゆり公園 しらゆり集会所 白百合愛児園

第３期計画の取組と成果

ゆるやかな見守り活動を継続して行うことができました。

- **しらゆり助っ人隊（ＳＳＴ）**の依頼者と隊員（ボランティア）との絆が深まり、年々実施件数が増え続けています。

- **ひとり暮らし高齢者食事会**での見守りのつながりが他の場で活かせるようになりました。会場を広い場所に変更したことや、泉サポートプロジェクトによる送迎を開始したことで、参加者が増えました。

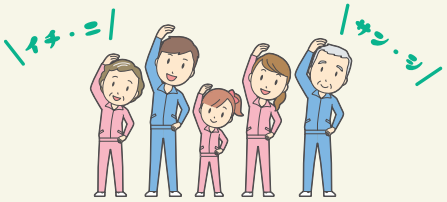
サロン等をきっかけに地域住民の交流がより盛んになりました。

- **ひよっこ教室、赤ちゃん訪問活動**をきっかけにママと子どもの知り合いが増えたなどの声がありました。

- **すこやかクラブ 21、サロンチートイツ**の活動をきっかけにして、男性の参加者が増えました。

健康づくりを通して、顔の見える関係ができました。

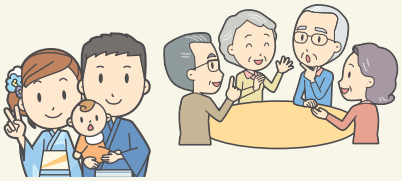
- **町ぐるみ健康体操教室**では、健康づくりだけでなく、おしゃべりの場としても楽しんでもらえるようになりました。



第４期計画の取組計画（目標、取組内容）

目標１

みんなが気軽に交流でき、地域の活動に参加できるまちにします！



取組内容

- 自分にもできると思える活動、より楽しく参加できるサロンや集まりづくり（サロンチートイツなど）
- 小中学生が地域の行事にかかわる体験づくり（夏祭り、防災訓練など）
- 地域の伝統的な行事を大切に引き継いで、世代間で交流ができるイベントを企画（納涼盆踊り、文化祭、体育祭など）

目標２

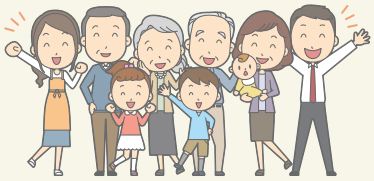
ちょっとした相談や手助けができる人が身近にいるまちにします！

取組内容

- 年を重ねても、安心して暮らせるまちづくり（ひとり暮らし高齢者食事会など）
- 住民同士の支えあい活動の充実（しらゆり助っ人隊など）
- 通う学校が違っても、近所同士のつきあい、「向こう三軒両隣」のほど良い関係づくり
- 災害時にも互いに支えあえる関係づくり（防災組織づくりなど）

目標３

こどもから大人まで、元気に明るく笑顔があふれるまちにします！

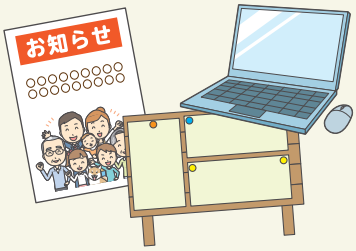


取組内容

- みんなが声かけ、あいさつできるまちづくり
- 身近な場所での体操教室等の開催、地域全体での健康づくり（町ぐるみ健康体操教室、すこやかクラブ 21など）
- 子育て世代が参加しやすく、意見が反映された活動づくり（ひよっこ教室など）

目標４

必要な情報が届くまちにします！



取組内容

- IT 等を活用した情報が行き届く仕組みづくり
- 掲示板、広報紙、チラシの充実、クチコミでの積極的な情報周知
- どこに頼んでも、応えてくれるネットワークづくり

しらゆり地区地域福祉保健計画懇談会

（問い合わせ先）泉区役所福祉保健センター　TEL　800-2433
泉区社会福祉協議会　TEL　802-2150
踊場地域ケアプラザ　TEL　801-2920

第３章　区計画

1　区計画とは

区計画は、各地区に共通する課題や、地区だけでは解決できない課題に対して、地区の取組を支援するための計画です。

区計画では、区役所・区社会福祉協議会・地域ケアプラザが、区民・活動団体・関係機関等と協働して地区の多様な課題に対して取り組んでいきます。

また、統計データ及び区民意識調査結果（Ｐ７からＰ19参照）も参考にして、計画を策定しました。

なお、具体的な取組は毎年度「事業計画」として明らかにし、進捗状況を把握し、実施結果を公表するとともに、次年度以降の取組に生かします。

2　第４期計画の「基本理念」

第２期及び第３期計画では、「支え合い・助け合いが活きる！元気の出るまち泉」を基本理念とし、基本理念に基づいた様々な取組を進めてきました。

第４期計画においても、この理念を継承し、これまでの活動を続けていくとともに、住み慣れた地域でいつまでも元気に暮らせるまちを目指すため、「互いに支え助け合う！誰もが安心して暮らせるまち泉」を基本理念として計画を推進していきます。

3　第４期計画の「推進の柱」

第２期計画では、基本理念に基づき、地区別計画と区計画をそれぞれ推進してきました。しかし、その振り返りでは、地区別計画と区計画のつながりが見えにくかったという課題が明らかになりました。また、区計画では土台となる「交流」「担い手」「情報」の取組と、「高齢」「障害」「子ども・子育て」などの分野別の取組の２層としていましたが、それぞれの取組に重なりが多いことや、地域における多様な課題に対して、分野別に取り組んでいくことが、課題解決に効果的につながったわけではありませんでした。

そのため、第３期計画では、基本理念の実現を目指して、第３期の５年間で推進することを３つの「推進の柱」としてまとめ、泉区全体として、第３期計画での方向性を明らかにしながら、地域の課題を横断的にとらえて取組を進めてきました。

第４期計画においても、５年間で推進することを３つの「推進の柱」として整理し(※)、５年間で特に力を入れることを重点項目に定め、課題解決に向けた行動計画・取組を設定して、取り組んでいきます。

（※）Ｐ75の参考資料「策定・推進検討会での振り返りと課題検討」を参照

推進の柱１	健やかに過ごせるまち
３期計画での 成果と課題	・幅広い年代で健康づくりの関心が高まり、取組が充実した。 ・地域で安心して暮らすためには、地域の支え合い等仕組みづくりが重要である。 ・安心・安全に過ごせるよう、災害等への備えが大切である。
４期計画での 主な行動計画	・介護予防・健康づくりの推進 ・安心・安全に暮らせる環境の整備と推進 ・個人の権利と尊厳を守るための仕組みづくり

推進の柱２	必要な支援が届くまち
３期計画での 成果と課題	・気軽に相談できる体制が充実した。 ・地域での困りごとの解決に向けて、多職種・多様な主体の連携が深まった。 ・様々な相談窓口があることを地域に対して十分に周知できていない。
４期計画での 主な行動計画	・制度の周知と相談対応の推進 ・支援者のスキルアップ・対応力向上 ・多様な主体による生活支援体制の構築

推進の柱３	人と人、活動と活動がつながるまち
３期計画での 成果と課題	・地域での行事等を通じて、様々な場所で交流が広がった。 ・地域での様々な活動に関する情報発信が不十分である。 ・多くの人が地域活動に参加できるような働きかけの継続が必要である。
４期計画での 主な行動計画	・地域活動に参加するきっかけ作り（情報発信） ・新たな担い手の発掘、育成 ・様々な人との交流の推進

基本理念

互いに支え助け合う！誰もが安心して暮らせるまち泉

推進の柱 1	健やかに過ごせるまち
重点項目 1	自分らしく生きるための支援を進める
重点項目 2	元気でいるための支援を充実させる
重点項目 3	地域の安全をみんなで考える

推進の柱 2	必要な支援が届くまち
重点項目 1	相談しやすい仕組みを整える
重点項目 2	困りごとを支援につなぐことができる人を増やす
重点項目 3	一人ひとりに寄り添った支援から地域の課題を考える

推進の柱 3	人と人、活動と活動がつながるまち
重点項目 1	参加する人を増やす
重点項目 2	担い手を増やす
重点項目 3	つながる機会を作る

推進の柱 1

《健やかに過ごせるまち》

（現状と課題）

- 少子高齢化が進み、一人暮らし高齢者世帯が増加する中、生涯にわたって住み慣れた地域で安心して暮らしていくことは重要なテーマです。
- 区民意識調査では、現在の心配ごとや困っていることとして「自分の病気」「家族の健康」「災害」「防犯」などが挙げられています。
- 支援を必要とする人であっても、地域の中で安心して自分らしく暮らし続けていけるよう、互いに必要な配慮ができる地域づくりが必要です。
- 年齢を重ねても自立した生活が送れるよう、介護予防や健康づくりに気軽に取り組める土壌づくりが必要です。
- 今後は、医療ニーズを抱えながら在宅生活を送る要介護者など、より複合的な生活課題を抱えた高齢者の増加が見込まれます。一人ひとりのニーズに応じて、専門職が連携して対応していくことが求められます。
- 近年の様々な自然災害に対して、地域における防災意識を高めるため、防災訓練などの地域防災活動が重要となっています。また、高齢者や障害者など災害時に手助けが必要な方を地域で支える仕組みづくりが大きな課題となっています。

（目指す姿）

- **支援が必要な人への理解が広まり、「支える側」「支えられる側」といった垣根を越えた、地域全体での助け合いが進んでいます。**
- **区民一人ひとりが主体的に、介護予防・健康づくりに取り組むことができています。**
- **「医療・介護」「介護・リハビリテーション」「保健・福祉」の専門職による一体的なサービスの提供が進んでいます。**
- **区民の自助・共助による防災の取組が進み、誰もが住み慣れた地域で安心・安全に暮らすことができています。**

【活動指標の例】

その他の活動指標は71～72ページに記載しています。

活動指標	現状値（令和元年度末）	目指す方向性
障がい理解・担い手育成のためのボランティア講座実施回数・参加者数（出前講座含む）	5 回・355人	増加
健康づくりと介護予防が連携した取組の実施回数	1 回	増加
医療介護の連携がとれていると感じる人の割合（アンケート）	―（新規）	上昇
まちの防災組織研修参加団体数	32団体（全155団体）	新規参加団体の増加

ケアラー（介護者等）の支援について

「ケアラー」とは、「こころやからだに不調のある人の『介護』『看病』『療育』『世話』『気遣い』など、ケアの必要な家族や近親者、友人、知人などを無償でケアする人」と日本ケアラー連盟は定義しています。

ケアラーは、ケアラー自身も高齢者であったり（いわゆる老々介護）、育児と親の介護を同時に抱えていたり（ダブルケア）、介護を担っているのが未成年の子どもや若者であったり（ヤングケアラー）、障害や疾患、難病のある兄妹姉妹のケアをしていたり（きょうだいケアラー）など、ケアする側、される側の置かれている状況も様々です。

私たちは、こうした状況が誰にでも起こりうることであるという共通認識を持ち、孤立することなく住み慣れた地域で誰もが安心して暮らしていくために、ケアラーの実情を地域課題と捉えて地域全体で支え合っていくことが求められています。

重点項目 1	自分らしく生きるための支援を進める
1	個人の権利と尊厳を守るための仕組みづくり
2	在宅での生活を支えるための連携体制の構築
3	サポートが必要な方々の理解と支援の推進
重点項目 2	元気でいるための支援を充実させる
1	介護予防・健康づくりの推進
重点項目 3	地域の安全をみんなで考える
1	安心・安全に暮らせる環境の整備と推進

重点項目１：自分らしく生きるための支援を進める

住み慣れた地域で自分らしく生きるためには、自らの生活に関する多様な選択が可能であることや、自身での意思決定が難しい状態になっても適切なサポートを受けられることが必要です。専門職間の連携やサポートが必要な方への理解を広めていくことで、困りごとを抱える一人ひとりの生活を地域全体で支える体制をつくっていきます。

また、認知症は自らだけでなく、家族や身近な人を含め、誰もがなりうるものであるという基本認識のもと、認知症になっても安心して自分らしく暮らすことができる地域の実現を目指します。

行動計画

1　個人の権利と尊厳を守るための仕組みづくり

◇　認知症に関する正しい知識の普及啓発を行います。
◇　認知症の人と家族が安心して住み慣れた地域で生活できるよう、地域での見守り体制を推進します。
◇　認知症が重症化する前に、適時・適切に医療・介護サービスが受けられる仕組みを作ります。
◇　高齢者や障害者の権利擁護や成年後見等の理解を進めます。
◇　高齢者や障害者への虐待を早期に発見できるよう、区民への啓発を推進します。
◇　虐待への対応が適切に行えるよう、関係機関との連携を進めます。

2　在宅での生活を支えるための連携体制の構築

◇　在宅医療を支える人材の育成を進め、多職種の連携体制を強化します。
◇　在宅医療や介護体制をより円滑に整えられるよう、泉区在宅医療連携拠点の支援を行います。
◇　在宅療養生活における多様な選択を可能にするため、区民や専門職への情報発信を行います。

3　サポートが必要な方々の理解と支援の推進

◇　障害児・者やその家族に対してのサポートに関する講座を開催します。
◇　障害児・者の理解を深めるため、障害者支援施設や地域作業所による自主製品販売等の支援を行います。
◇　障害児・者の活動をサポートする担い手の育成のため、ボランティア講座を実施します。
◇　児童虐待予防や早期対応のため、地域や関係機関との連携を強化し、地域で見守るネットワークの充実を図ります。
◇　日本語が苦手な外国籍区民の支援をします。
◇　こころの病や精神疾患についての理解を広め、当事者の社会参加を支援します。

コラム

障害児・者理解啓発事業

泉区では、障害のある方もない方もお互い尊重しあい、自分らしく暮らしていくことを大切に「共に生きる社会」を目指して障害児・者の理解啓発事業に取り組んでいます。

令和２年度には、区内の地域作業所を巡る「泉ふれあいシールラリー」を始めました。市内でも泉区は障害者福祉施設が多く、障害のある方が日中を過ごしたり、仕事をする施設が60か所以上あります。地域の方に障害者福祉施設に足を運んでいただき、まずは知っていただくための取組です。身近な地域で、障害のある方と地域の方が交流し相互理解を深めていくきっかけになればと考えています。

また、泉区役所の区民ホールでは、12か所の障害福祉施設が自主製品の販売、戸塚駅では３か所の施設が泉区産農産物の販売を行っています。販売をとおし、区民の方との交流や相互理解につながっています。

泉ふれあいシールラリー

喫茶での仕事の様子

泉区障害福祉自立支援協議会

泉区障害福祉自立支援協議会（以下、「協議会」という）は、障害のある方が地域で安心して生活するために、平成18年11月に設置されました。障害福祉サービス事業所等のネットワークづくりや地域で課題を共有し解決に向け協働する場となっています。基幹相談支援センター「かがやき」と生活支援センター「芽生え」、区役所の三者が共管し、障害児・者に関係する機関と当事者が参加しています。泉区では総会や協議会など全体で協議する場と８つの専門部会（相談部会、子ども部会、みんなで支援計画を考える部会、グループホーム部会、重心部会、相談部会、本人部会（交流の輪・ドリームズ）、精神保健福祉部会）が活動しています。

重点項目２：元気でいるための支援を充実させる

加齢による生活機能の低下を予防する「介護予防」の取組とともに、若い世代からの生活習慣病の予防や体力維持向上の「健康づくり」を進めます。

また、ライフステージに合わせた健康づくりの普及啓発や機会の提供を行うとともに、地域全体で介護予防や健康づくりに取り組むことができるような仕組みづくりを進めていきます。

行動計画

１　介護予防・健康づくりの推進

◇　受動喫煙防止や禁煙相談等に取り組みます。

◇　乳幼児健診の保護者への健康づくりの啓発を実施します。

◇　地域などでのがん検診や若い世代からの生活習慣病予防など、セルフケアの取組への支援を実施します。
◇　自ら介護予防・健康づくりに取り組むための区民意識を醸成します。
◇　介護予防・健康づくりに継続的に取り組める環境を整備します。
◇　介護予防・健康づくりを担う人材の育成や活動支援を行います。

コラム

和泉川健康みちづくり事業

加齢に伴う生活機能低下を予防する「介護予防」と、若い世代からの生活習慣病予防や体力維持向上の「健康づくり」に継続的に取り組める環境として、和泉川の河川管理用通路を活用して河川沿いの遊歩道を整備しています。この遊歩道は、横浜市が実施する「健康みちづくり推進事業」に基づき、健康みちづくりルート広域版（複数の区をまたぐルート）の「川辺を歩くせせらぎルート（いずみ中央駅～三ツ境駅）」の一部となっています。

泉区では、関係局と連携して和泉川沿いにベンチや日陰を作るパーゴラ、距離標などを整備するとともに、近隣の公園を活用して新たに健康遊具を設置しました。

横浜市国民健康保険特定健診について～健康寿命を延ばすための健康づくりを進める～

横浜市国民健康保険では、内臓脂肪の蓄積に起因する高血圧症、脂質異常症、糖尿病等の生活習慣病リスクを見つけ、生活習慣改善、病気の予防を目的とする「特定健康診査（特定健診）」を実施しています。

特定健診は横浜市国民健康保険に加入している40歳から75歳の誕生日を迎える方が対象となります。費用は無料です。

特定健診を受診するには受診券が必要になります。受診券は４月１日時点で横浜市国民健康保険に加入している方には５月中旬頃に泉区保険年金課から郵送されます。（４月２日以降にご加入された方は受診券の発行申請が必要になります。）

「自分には関係ない」「自分は大丈夫」と思っていても、生活習慣病は自覚症状が出にくい病気です。気が付きにくい身体の変化に早く気づくためにも特定健診を受診しましょう。

重点項目３：地域の安全をみんなで考える

地域で誰もが安心・安全に暮らすためには、地域住民と行政、関係団体が日頃から連携して、自助・互助の取組を進めていくことが重要となります。

そのためには、区民一人ひとりが「地域をより良くしたい」という意思を持ち、地域の課題解決や支え合いの活動に参加し、安心・安全に暮らせる地域社会の実現を目指していくことが大切です。

行動計画

1　安心・安全に暮らせる環境の整備と推進

◇　地域での防犯、防災の意識を高めるための啓発を行っていきます。

◇　幅広い世代が災害を自分事として考えるきっかけを作り、地域の防災活動への参加に繋げます。

◇　震災発生時に、円滑な開設・運営が可能となるよう地域防災拠点の取組を支援するとともに、避難生活に支援等が必要な要援護者の受け入れが円滑に行えるよう福祉避難所との連携を強化します。

◇　高齢者や障害児・者など、災害時に手助けが必要な方（災害時要援護者）の把握や見守り、避難支援の仕組みづくりを地域と共に進めます。

◇　市民生活を守り、災害に強い、安心・安全なまちづくりを進めます。

◇　学校から帰宅する時間帯に保護者が家庭にいない児童に対し、遊びや生活の場を提供し、放課後の安心・安全な居場所づくりを進めていきます。

◇　地域で安心して子育てができるように、地域住民同士で子どもを預け預かる支え合いの仕組みを促進します。

◇　不慮の事故から子どもの命を守るため、事故予防や救急医療のかかり方等の普及啓発を進めます。

災害時要援護者支援について

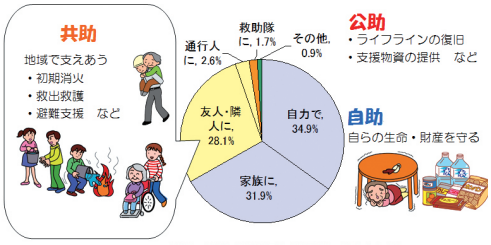
災害時要援護者とは、高齢者や障害児・者、妊産婦や乳幼児等の災害時に支援が必要な方をいいます。

過去の大きな災害では、要援護者の方への支援、支援のための連携等が不十分であったことがわかっています。平成23年３月の東日本大震災においても、被災者全体に比べ、要援護者の方の被災率が高く、避難を行うための情報伝達、安否確認が円滑に進まなかったことなどの課題が浮き彫りになりました。

> 東日本大震災時の犠牲者の約64％が高齢者
> 東日本大震災時の障害児・者の死亡率は被災住民全体の死亡率の約２倍（2.06％）

災害時要援護者の方々が災害から身を守るためには、本人、家族などによる「自助」に加え、地域による安否確認や避難支援等の「共助」の果たす役割が重要です。阪神・淡路大震災では、自力や近隣住民等によって救助された人の割合は90％を超えています。

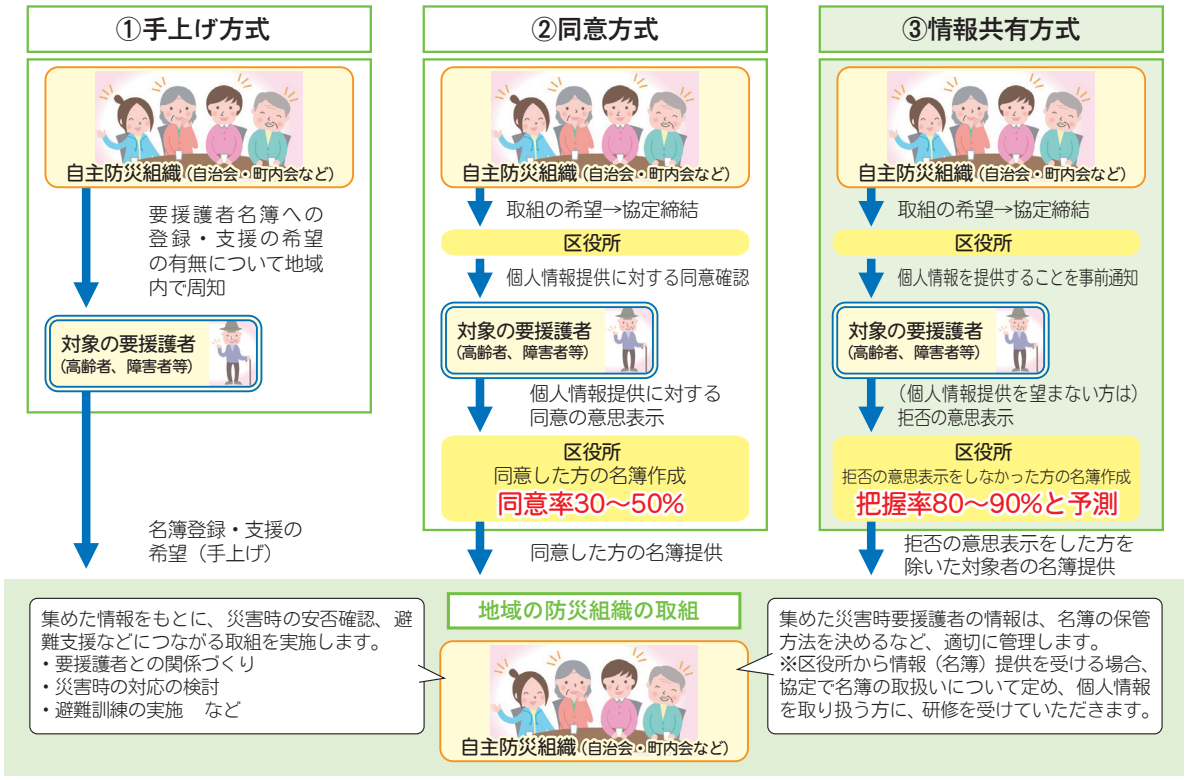
平時から要援護者との顔の見える関係づくりや地域で支えあう体制づくりをしておくことが、いざという時の助け合いにつながります。



阪神・淡路大震災で人命救助した人の内訳
出典：（社）日本火災学会：兵庫県南部地震における火災に関する調査報告書

災害時要援護者支援の取組は、対象者を把握することから始まります。
横浜市では、３つの方式から地域の皆様が活用しやすい方式を選択いただき、災害時要援護者を把握できるよう支援しています。地域の実情に合った方法をご検討ください。

名簿作成・提供の流れ等



福祉避難所とは

大規模災害により、自宅で生活できなくなった場合は地域防災拠点に指定されている小・中学校で避難生活を送ることになります。

地域防災拠点では、高齢者、障害児・者、妊産婦、乳幼児などの要援護者向けのスペースを確保することとなっており、要援護者は周囲の支援を得て生活することとなりますが、特別な配慮が必要等の事情により、避難生活を継続することが難しい場合もあります。このような要援護者を受入れるための二次的な避難所が「福祉避難所」です。

「福祉避難所」は、区役所と協定を締結している社会福祉施設など（高齢者施設、障害者施設、地域ケアプラザなど）に開設し、避難にあたっては専門職（保健師）などが、本人の状況や要介護認定の有無などを確認し、必要性を判断します。

※特別養護老人ホームなどへの緊急入所について

大規模災害時、介護保険の要介護認定を受けている方のうち、地域防災拠点や自宅での生活が困難であり、施設職員による介助が必要な方を対象に、特別養護老人ホームなどで緊急入所による受入れを行うこともあります。

防犯に関する取組

泉区では、地域における自主的な取組の力を合わせることにより、罪を犯そうとしている人を寄せ付けない、犯罪に強く快適な地域を皆さんと一緒に作ることを防犯の目標にしています。このことを踏まえ、主に次のような取組を行い、地域の防犯活動を支援しています。

防犯講習会

地域と警察・区役所が合同で開催し、実際に発生した事案を紹介し、詐欺などの犯罪被害者とならないポイント等を地域で共有することにより防犯意識の向上を図っています。

防犯パトロール

防犯パトロールは、地域の方々が誰でも手軽に参加でき、犯罪を未然に防ぐのに効果的な防犯活動の代表的な取組です。危険と思われる個所の早期発見や、防犯意識の高い地域であることもアピールできます。

推進の柱 2

《必要な支援が届くまち》

（現状と課題）

- 誰もが自分の生活に応じた必要なサービスを受けられれば、住み慣れた地域で安心して暮らすことができます。
- ライフスタイルが多様化している現代においては、子育てや介護などにも様々な課題が出てきています。
- 困りごとを抱えている人が必要な支援につながらない場合があるなど、各機関の相談窓口の機能について十分な周知ができていません。

（目指す姿）

- **関係機関の様々な窓口が、気軽な相談先としてより広く認知されています。**
- **地域住民や関係機関等、多様な主体との連携が進み、課題解決に向けた取組が広がっています。**

【活動指標の例】

その他の活動指標は72～73ページに記載しています。

活動指標	現状値（令和元年度末）	目指す方向性
地域ケアプラザへの相談件数	子ども・障害：214件 高齢：9,672件	―
泉サポートプロジェクト参画施設・企業による活動数	22件	増加

重点項目 1　相談しやすい仕組みを整える
1　制度の周知と相談対応の推進 2　妊娠期からの切れ目のない子育て支援
重点項目 2　困りごとを支援につなぐことができる人を増やす
1　支援者のスキルアップ・対応力向上
重点項目 3　一人ひとりに寄り添った支援から地域の課題を考える
1　地域課題の抽出と課題解決に向けた取組の検討

重点項目１：相談しやすい仕組みを整える

様々な課題に直面した時に、気軽に相談できる窓口があるということが、地域で生活していく上での安心感につながります。このような相談体制の確立と合わせて、区民が気軽に相談でき、複雑な相談に対しては適切な機関につないで解決が図られるよう、身近な相談窓口の充実や相談機関のネットワーク化など、相談体制の充実が求められています。

また、様々な関係機関に相談窓口があるということを、多様な媒体を通じて積極的に情報発信していきます。

行動計画

1　制度の周知と相談対応の推進

◇　身近な場所で、親子の交流や子育てに関する相談対応・情報提供を行います。
◇　区役所で乳幼児期から学齢期までの子育て等の悩みごとに関する相談を実施します。
◇　ひきこもり等の困難を抱える方やその家族に対しての専門相談を実施し、自立を支援します。
◇　養育者の多様な保育ニーズに対して、きめ細やかな相談対応・情報提供を行います。
◇　身近な場所で、障害のある人や地域住民の相談対応・情報提供を行います。また、地域に向けての障害理解啓発の活動を行います。
◇　身近な相談窓口の機能・連絡先を周知します。

ひきこもり等の困難を抱える若者の支援

平成29年度に実施した「横浜市子ども・若者実態調査/市民生活実態調査」によると、学校での人間関係や就職活動のつまずきなどによって、ひきこもり状態になっている若者（15歳から39歳まで）は、市内に少なくとも約15,000人いると推計されています。このような若者は社会とのつながりが希薄なうえ、相談先があること自体を知らないことも多く、本人・家族共に支援機関等に相談できず抱え込んでしまい、ひきこもり状態が長期化・深刻化している現状があります。

こうした背景から、区役所では平成29年度からよこはま西部ユースプラザの地域連携相談員（社会福祉士等）による、「ひきこもり等の困難を抱える若者の専門相談」を実施しています。また、令和元年度には泉区と西部ユースプラザ共催により、ひきこもり等の困難を抱える若者の現状についての理解を深めるセミナーと、支援につながっていないひきこもりの方やその家族が当日相談できる個別相談会を地域ケアプラザで開催しました。

泉区では、支援を必要とする若者やそのご家族を早期に適切な支援につなげる取組を進めています。

2　妊娠期からの切れ目のない子育て支援

◇　横浜市版子育て世代包括支援センターとして、区役所と地域子育て支援拠点のそれぞれの強みを生かし、連携を図りながら妊娠期から乳幼児期の切れ目のない支援を推進します。

◇　初めて子育てをする親と1歳までの子を対象に、身近な会場で子育ての学習や仲間づくりをすすめます。

◇　生後４か月までの乳児がいる全ての家庭を地域の人（こんにちは赤ちゃん訪問員）が訪問することで、日常的な交流のきっかけをつくり、地域で子どもを見守るまちづくりを推進します。

重点項目２：困りごとを支援につなぐことができる人を増やす

困りごとを抱えていても自らＳＯＳを発したり、相談支援機関につながることが難しい場合、深刻な状態になってから相談支援機関が関わることが少なくありません。こうした事態を未然に防ぐためには、地域の中に困りごとや生活のしづらさを抱える方がいるということに身近な方が気づき、必要な支援につないでいけるよう、きめ細やかなネットワークがあることが求められています。

また、多様化・複雑化する課題に対してきめ細やかな対応ができるよう、相談に関する必要な知識・技術を学ぶなど支援者側の対応力向上を図っていきます。

行動計画

1　支援者のスキルアップ・対応力向上

◇　地域の子育て支援の場で、養育者の困りごとなどを傾聴し必要な支援につなげられる、子育てボランティアを増やします。

◇　ひきこもり等の困難を抱える方やその家族への支援に向けた地域の理解を深めます。

◇　保育の質の向上を図り、乳幼児の健全な成長を促進します。

◇　生活困窮者が相談・支援につながりやすい地域づくりを進めます。

◇　様々な相談に対応できるよう、関係機関職員等を対象とした研修等を開催し、対応力の向上を図ります。

◇　地域特性の把握・共有と、地域支援への活用を進めます。

◇　地域支援に携わる区職員等のコーディネート力向上を目的とした研修等を実施します。

コラム

保育所による地域子育て支援

保育所には、保育所を利用している保護者への子育て支援以外に、地域の保護者等に対する子育て支援の役割があります。保育所の保育の専門性を生かし、その地域に開かれた子育て支援を行っています。

子どもと触れ合う機会がなく、具体的なイメージを持たないまま子育てをする人が多い中、保育所等の「園庭開放」や「施設開放」で様々な年齢のたくさんの子どもたちを見ることで、成長発達の見通しや子どもの特徴を理解することができ、安心して子育てできるようになります。保育所の広い園庭や安全な砂場も魅力のひとつです。

また、子どもとの関わり方やしつけについて悩む保護者が多い中、保育士の子どもへの関わりを通して、具体的な接し方や遊ばせ方を学ぶこともできます。保育所で行う「育児講座」では、保育士や外部講師が地域の親子向けに、触れ合い遊びやわらべうた遊び、ベビーマッサージ、離乳食の話等を行い、子育てに役立つ講座となっています。また「交流保育」では園児と同じ活動や行事に参加することで、保育所の生活を体験し同年齢の子どもたちの様子を身近で知る機会にもなります。

核家族化が進み、子育てに関する日常の小さな疑問や悩みを相談できる人が少なくなる中、保育所は遊びだけでなく、健康・食事・睡眠等に関する様々な「育児相談」に対応する場としての役割も担っています。

保育所を通して、保育所の保護者や地域の親子が顔を合わせ集うことで他の親子とつながる場となり、これから地域で成長していく子どもたちへの支援となります。

地域の子育て支援力向上事業　～孤立化予防への取組～

泉区では、他都市から移り住み子育てを始める世帯も増えており、地域の支援者による子育てサロンや親子の公園遊びなど、子育て支援の取組が数十年前から進められています。

核家族化が進み、子育て環境が大きく変化している中で、地域の中で安心して子育てができるためには何が必要か、泉区の子育て支援関係者・関係機関の方々との意見交換や、実際に子育てしている方へのアンケートを実施し支援策を考えました。

アンケートから見えてきたことは、①子育て中は楽しいこともイライラすることもある。②地域の人との交流をしながら子育てしたい。③社会的に孤立状態にあると孤独感が強くなる。④子育て中の親子が孤立しないための支援が必要。という事から、子育て世代をあたたかく見守る風土づくりと子育てを応援しているメッセージを伝えるため、シンボルとして「みんなで子育て応援中」ののぼり旗を掲示し、区内各地で実施されている子育て支援を周知しています。また、その支援の場で、参加する親子に傾聴して寄り添う「子育て応援サポーター」が活動を始めています。

これからも、泉区の地域の方々や子育て関連施設と子育て中の親子が一緒に交流し、「子育てしやすいまち」を目指していきます。

はちまるごーまる
８０５０問題について

不登校や仕事でのつまずきなど様々な理由から、社会的活動を避け、家庭にとどまり続けている状態を「ひきこもり」と呼びます。中でも、高齢の親とひきこもりの40代、50代の子が同居していて、親の介護が必要になったりすることや、親が亡くなった後、子が経済的困窮や社会的孤立を深めてしまう恐れがある状態をいわゆる「8050(はちまるごーまる)問題」と言っています。近年社会的問題としてクローズアップされるようになりました。

「8050(はちまるごーまる)問題」は、様々な問題が絡み合っている状態であるため、家族全体の課題解決が必要です。そのため横浜市においても、包括的な支援体制や相談しやすい体制づくりに向けて検討を進めているところです。

当事者やその家族を温かく見守ることができ、ＳＯＳが発せられたとき、キャッチすることができる地域づくりを進めていけるよう、関係機関と連携しながら取り組んでいきます。

生活困窮者自立支援制度について

新型コロナウイルスの影響を受け、失業や就労機会の減少により経済的に困窮する世帯が増えました。国は定額給付金をはじめとした様々な支援策を打ち出しましたが、それだけでは生活を支えきれないという訴えが数多く寄せられました。

このコロナ禍で増加した相談を受け止めたのが平成27年度からスタートしている生活困窮者自立支援制度です。この制度は、相談者とともに課題解決や自立に向けたプランを考える伴走型の支援制度です。

失業や副業探しのご相談に対しては、ハローワークと連携した仕事探しへの支援、収入回復までの家賃を支援する住居確保給付金、借金の返済や税金、健康保険料などの支払いが滞ったという方への家計相談といった支援メニューがあります。

様々な困りごとを抱え込み、孤独に陥っている方も増えています。身近な地域にお困りの方がいらっしゃったら、相談の一歩を踏み出せるよう優しく背中を押していただけるとありがたいです。地域にある支援機関や、地域のみなさんとのつながりが大きなサポートになります。

重点項目３：一人ひとりに寄り添った支援から地域の課題を考える

一人ひとりに寄り添った対応を積み重ねていくことで、多様な課題を抱える人たちへの支援の充実を目指します。

また、身近な地域の中で、一人ひとりが周囲の困りごとや生活のしづらさに関心をもって、関係機関との協働を進めていくことで、地域での生活を支えます。

行動計画

１　地域課題の抽出と課題解決に向けた取組の検討

◇　地域子育て支援拠点、区役所が子育て世代の当事者の声を拾い、地域ニーズを分析し、課題解決に向けた取組を地域活動者と共に検討します。

◇　自立支援協議会を開催し、障害児・者とその家族が抱える地域課題を共有し、解決に向けて地域と協働していきます。

◇　地域特性及び多様な個別ニーズの分析を基にした生活支援体制の構築を進めます。

◇　多様な主体と連携し、日常の困りごとに対する支援を充実させます。

いわゆる「ごみ屋敷」問題について

いわゆる「ごみ屋敷」問題は、「横浜市建築物等における不良な生活環境の解消及び発生の防止を図るための支援及び措置に関する条例」で支援等について定められています。

屋内外に溢れかえった堆積物の中で生活する様子をテレビ等の報道で目にする機会もありますが、近年は家の中だけに溜め込み、外観上は見えない（「ごみ屋敷」と分からない）住宅が増えています。

「ごみ屋敷」となってしまう背景には、病気などの何らかの事情で、ごみの分別や排出ができず、誰に、どのように相談していいか分からないことが、大きな一因となっています。

必要な支援が届くように、区役所関係各課や地域ケアプラザ等と連携し、相談しやすい仕組みを整えて、いわゆる「ごみ屋敷」問題を抱えている方に寄り添いながら、排出等の支援を行っていきます。

生活支援体制整備事業　～支え合いの仕組みづくり～

生活支援体制整備事業では、高齢者一人ひとりができることを大切にしながら暮らし続けられるよう、「生活支援」「交流・居場所」「見守り・つながり」の充実に向けて多様な主体が連携・協力する地域づくりを行っています。

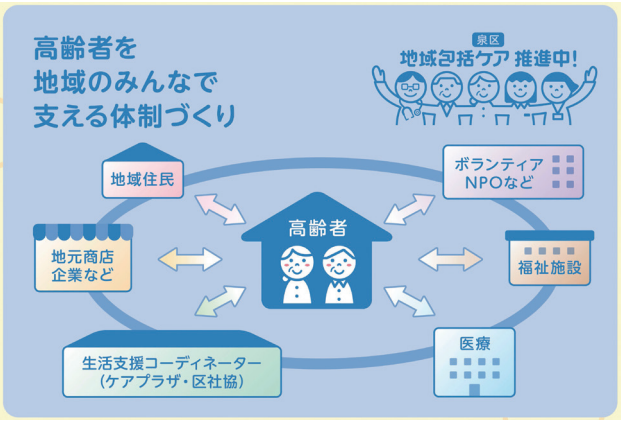
生活支援コーディネーター

高齢者が住み慣れたまちで安心して自分らしく暮らし続けるためには、介護や医療等の専門サービスだけでなく住民同士の支え合いが必要です。泉区社会福祉協議会と各地域ケアプラザの生活支援コーディネーターは、高齢者一人ひとりのニーズに応じた支援が届く地域づくりを目指し、様々な機関と連携しながら、住民同士の支え合いの仕組みづくりのお手伝いをしています。

- **生活支援**
  …ちょっとした日常生活の手助けをすること
- **交流・居場所**
  …人とのふれあいや生きがいを感じる場や機会があること
- **見守り・つながり**
  …困っている人に気付き、必要なサービスや相談機関などにつながること

泉サポートプロジェクト

泉区内の社会福祉法人や企業等が地域貢献の一環として地域のちょっとした困りごとを支援する取組です。現在約30団体以上が参加しており、施設の車両の空き時間を利用した食事会や敬老会の送迎、施設の会場貸し出し、在宅介護講習会の開催など、様々な活動を実施しています。



推進の柱 3

《人と人、活動と活動がつながるまち》

（現状と課題）

- ライフスタイルや価値観の多様化等により、地域の中でのつながりが希薄化しています。
- 地域活動への参加者数は年々減少してきており、活動の活性化が図られなくなったり、担い手が固定化する等の課題が生じています。
- 区民意識調査では、地域活動に参加するための「情報提供」が必要と挙がっており、情報発信の重要性が表れています。

（目指す姿）

- **興味ややりがいを持って、地域活動に参加する人が増えています。**
- **日頃からの見守りや支え合いが広がり、「困ったときはお互い様」の気持ちで、必要な時に上手に助け合える関係づくりが進んでいます。**
- **活動内容に応じた支援が進み、活動を継続することができています。**

【活動指標の例】

その他の活動指標は73ページに記載しています。

活動指標	現状値（令和元年度末）	目指す方向性
公園愛護会、水辺愛護会、ハマロードサポーターの団体数	公園愛護会：92 水辺愛護会：16 ハマロードサポーター：25	増加
住民主体の地域の活動把握数（うち、交流・居場所の数）	623件	増加

重点項目 1	参加する人を増やす
1	地域活動に参加するきっかけ作り
重点項目 2	担い手を増やす
1	活動を継続していくための支援
2	新たな担い手の発掘・育成
重点項目 3	つながる機会を作る
1	様々な人との交流の推進
2	関係機関同士の連携強化

重点項目１：参加する人を増やす

区民にとって、地域活動が身近で参加しやすいもので、参加することで得られる満足感や達成感が分かりやすい仕組みを構築していくことが重要です。

また、区民のニーズに合った情報提供・発信を行っていくことが参加者を増やすことにつながっていきます。

行動計画

１　地域活動に参加するきっかけ作り

◇　地域における子育て情報を発信します。

◇　地域の活動を周知するためのイベントを企画、開催します。

◇　地域活動への参加意欲向上のため、幅広い世代に向けて情報発信をします。

公園愛護会等の取組

地域に身近な公園や河川、道路の管理は、施設を設置している横浜市だけでなく、地域の皆様や企業の方々を中心としたボランティア団体である「公園愛護会」「水辺愛護会」「ハマロード・サポーター」にご協力いただいています。現在泉区では133のボランティア団体が区内の公園・河川・道路の日常的な清掃や花植え等の環境美化活動に取り組んでいます。

区民にとって地域活動が身近で参加しやすいもので、参加することで得られる満足感や達成感が分かりやすい仕組みを構築するため、各愛護会の活動紹介や技術講習会等を通して幅広い世代に向けて情報発信をし、愛護会の知名度向上や技術向上、愛護会と地域の新たな連携を促進していきます。

公園愛護会

ハマロード・サポーター

水辺愛護会

重点項目２：担い手を増やす

子どもから高齢者まで、多くの区民が地域活動に携われるような取組を進めるとともに、既存の活動グループがより発展するようサポートし、新規立ち上げの活動グループの活動支援を進めていきます。

行動計画

１　活動を継続していくための支援

◇　地域の活動グループからの相談対応や助言、研修会の実施により、活動継続を支援します。

◇　各種助成制度や実践的な技術を学ぶ研修等の実施により、地域活動を支援します。

◇　各種活動団体の交流会実施、事例等の共有、担い手同士の連携強化により、活動の継続に向けた支援を行います。

◇　現在活動している人が、地域の様々な課題を協力し合いながら解決する力を身に付けるための講座を開催します。

◇　地域活動に関心を持ってもらうために、ホームページや事例集を通じ、効果的に情報を発信します。

◇　ICTを活用してより多くの方々が地域活動に関われるよう、支援します。

地域活動参加へのきっかけづくり

泉区ボランティアセンター（以下、「ボラセン」という）では、ボランティアに関する様々な相談受付や講座開催などを通して、新たな担い手の発掘やボランティア活動継続のための支援を主に行っています。ボランティアを必要としている方や活動をしたい人の相談受付、ボランティア養成講座やスキルアップ講座などの開催、泉区ボランティアセンター通信かわら版・キラぼら泉などの情報誌の発行、ボランティア保険の受付を行っています。

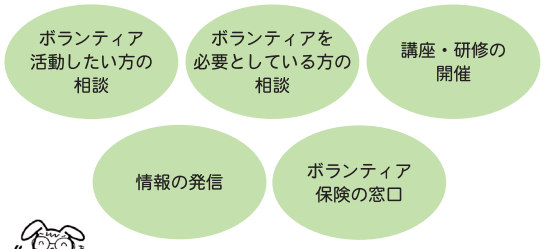
地域内には庭の手入れや電球の交換など、生活の中でのちょっとした困りごとを抱えている方々がいます。そのような相談がボラセンに入った場合、地区内にある「ちょこボラ」（住民同士の助け合い）を紹介することがあります。身近な地域の助け合いを広げるために「ちょこボラ」と調整したうえで、作業が開始されます。

他には、夏休みに小学校４年生～高校生までが参加できる「いずみサマースクール」を開催しています。区内の高齢・障がい・子どもの施設で、学生がボランティア体験を行います。ボランティア活動を通して福祉に興味を持ってもらい、新たな担い手作りにつなげる目的で行っています。

今後、高齢化が進み制度では対応できない問題などの増加に伴い、今まで以上に多くの活動グループや個人の担い手作りなどが必要になります。

誰もが安心して暮らせる地域づくりのため、ボラセンでは、ボランティア活動がしやすい環境を整えるため、その役割を発揮していきます。

ボランティアセンターの５つの役割



泉区ボランティアセンターキャラクター「ボラビー」

コラム　泉区まちづくりみらい塾　～地域活動の担い手育成に向けて～

現地見学会の様子

泉区まちづくりみらい塾は、自治会町内会やＮＰＯ法人などで既に活動している方や、これから地域活動をしてみようと思っている方を対象に、様々な地域活動の事例を学び、地域づくりに一歩踏み出せるよう、具体的なチャレンジプランを考えるプログラムを実施しています。

平成 24 年度からこの取組が始まり、現在は、泉区区政推進課・地域団体（泉区まちづくりみらい塾）・認定ＮＰＯ法人市民セクターよこはまの三者が協働で運営しています。第９期を迎えた令和２年度から、新しい生活様式を踏まえた、WEB 会議システム（zoom）を活用したオンライン形式による講演や現地見学会を実施しています。

様々な工夫を凝らした地域活動を展開している事例を学び、アイデアを出し合います。受講生は参加をきっかけに、自治会町内会等の地域団体で多様な活動に取り組んでいます。

●令和２年度プログラム（参考）
- ◇第1講　10月10日（土）　開講式・オリエンテーション（泉区役所）
- ◇第2講　現地見学会①
  - 11月７日（土）　都筑区北山田町内会
- ◇第3講　現場見学会②
  - 12月７日（月）　ＮＰＯ法人宮ノマエストロ（泉区）
  - 12月14日（月）　ＮＰＯ法人カフェ大倉山ミエル（港北区）
  - 12月23日（水）　ハートフルポート（旭区）
- ◇第4講　１月23日（土）　チャレンジプラン作成（横浜市市民協働推進センター）

持続可能な地域活動のために

ZOOM 講座の様子

コミュニティだんだんで開催されている学生によるスマートフォン講座

現在、地域活動では担い手の不足が大きな課題となっています。このような状況が続いていくと、現在活動に携わっている方の負担はますます増加し、活動自体の停滞が進み、場合によっては住み慣れた地域で安心、安全に暮らすということ自体が困難になってしまうかもしれません。

地域活動はその時のライフスタイルや価値観によって、時代とともに大きく変化しています。その時代の変化やニーズに合わせた形、スタイルが求められています。

そこで、泉区でも担い手不足の解消と持続可能な地域活動の実現に向けて、原因やその背景を調査し、その解決のための取組を検討していきます。

また、今回のコロナ禍を一つのきっかけとしてスマートフォンやＷＥＢ会議システム等の活用方法に関する講座を開催し、ＩＣＴを活用できる人を増やします。そうすることで、様々な活動にもＩＣＴが活用され、若い世代も地域活動に参加しやすくなるなど、これまで以上にみんなで「住み慣れた地域で、いつまでも元気に暮らす」ことができるまちを目指します。

2　新たな担い手の発掘・育成

◇　地域での新たな担い手を発掘・育成するため、これから地域に戻る世代（50～60代）を対象とした講座の開催や情報提供を行います。
◇　幅広い世代が気軽に取り組める地域活動の実施を支援します。
◇　企業・ＮＰＯや学校等と地域との協力関係を構築し、地域活動への参加を促進します。
◇　担い手として気軽に活動を始められるような講座の開催や、その人のニーズに合わせた活動を紹介します。

重点項目３：つながる機会を作る

泉区には、地域で気軽に参加できるボランティア活動グループや、福祉施設が数多くあり、それぞれの活動が活発であることが特徴です。そこに多くの方が集まることで、新たなアイデアが生まれ、活動が活性化し、いろいろな人とのつながりから交流が盛んになることを目指します。

行動計画

1　様々な人との交流の推進

◇　小中高生や保護者に対し、乳幼児や高齢者、障害児・者についての理解を進める機会を提供します。
◇　障害児・者と地域住民の交流及び障害児・者の社会参加の促進を目的とした取組を支援します。
◇　身近な場所での交流の機会や居場所を充実させ、高齢者の社会参加を促進します。
◇　地域の中での日頃からの見守り・声かけの輪を広げます。

2　関係機関同士の連携強化

◇　障害のある人への支援の充実のため、関係者間の情報共有を進めます。
◇　学校、家庭及び地域が連携して、それぞれが持つ教育機能を発揮することで、青少年育成と地域における活動の充実を図ります。
◇　子どもの育ちや親の不安を支えていくための子育て課題を多様な視点から解決するため、子育て支援ネットワークによる関係機関との連携を進めていきます。
◇　行政から各種地域団体への情報提供等を行います。
◇　区役所内をはじめ、区社会福祉協議会・地域ケアプラザなど関係機関・団体等との連携を強化します。

地域ケア会議について

高齢化が進むなか、可能な限り住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、医療・介護・予防・住まい・生活支援などが一体的に提供される「地域包括ケアシステム」の構築がすすめられています。その取組みのひとつとして、「地域ケア会議」があります。

地域ケア会議の参加者は、保健・医療・福祉の専門職や地域の支援者等で構成されています。区内7つの地域ケアプラザに設置されている各地域包括支援センターが主催となり、個々の高齢者の課題を検討する個別ケース地域ケア会議、地域ケアプラザのエリアごとに地域課題を検討する包括レベル地域ケア会議を開催しています。

また、区域での課題把握や検討については泉区役所が区レベル地域ケア会議を開催しています。

各会議を積み重ね、課題のフィードバックを行い、高齢者個人に対する支援の充実と、それを支える社会基盤の整備を同時にすすめています。

これは、第4期計画の推進の柱2の重点項目3「一人ひとりに寄り添った支援から地域の課題を考える」につながっていくものです。

泉区では「高齢者の移動支援」や「地域の居場所づくり」等、様々なテーマで実施しており、令和2年度は「通いの場の活動継続」について、検討を行いました。

今後も各地域包括支援センターと連携し、高齢者支援に関する課題を地域ケア会議で検討していきます。

個人の困りごとの解決がまち全体の困り事の解決につながることもあります。

第 4 章　計画の構成と推進体制及び進行管理

第 4 期泉区地域福祉保健計画の推進にあたっては、その推進体制を整えるとともに、進行を管理することで、基本理念の実現を目指します。

1　計画の構成

(1)　地区別計画

地区別計画は、第 1 期～第 3 期計画と同様、地域が主体的に策定し、地区ごとの課題解決に向けて地域主体の取組を進めます。

各地区では、地区別計画を推進する組織（推進委員会、地区社会福祉協議会など）が形成されています。この推進組織を中心として、地区での活動を展開しています。

活動を進めていくのは、地区によって違いはありますが、連合自治会・町内会、地区社会福祉協議会、地区経営委員会、民生委員児童委員協議会等の地域組織や、個人、活動団体、関係機関などです。幅広く連携して、よりよい地域づくりを行うための取組を進めます。

また、区役所・区社会福祉協議会・地域ケアプラザで構成する地域支援チームが、地区の活動を支援します。

(2)　区計画

区計画は、地区別計画を支えるために、区域に共通する課題解決に向けて、区役所・区社会福祉協議会･地域ケアプラザが中心となり、区民や関係機関と協働した取組を進めます。

2　計画の推進体制及び進行管理・評価について

(1)　泉区地域福祉保健推進協議会
（分科会：泉区地域福祉保健計画策定・推進検討会）

泉区地域福祉保健計画は、地区別計画推進組織、活動団体、関係機関等で構成される「泉区地域福祉保健推進協議会」において、計画全体の推進及び進行管理（振り返り）、活動情報の共有、計画推進における課題やその対応策の検討及び新たな提案等を行い、区計画や地区別計画の推進に生かします。

この計画を推進するために、第 2 期計画時から泉区地域福祉保健推進協議会を設置しています。 4 期計画策定に向けては、推進協議会の位置づけを見直し、協議会委員より策定･推進検討会を組織し、分科会として計画推進の課題やその対応策の検討、新たな提案等を行い、協議を進めてきました。

なお、泉区地域福祉保健推進協議会は、12地区の代表と27の関係機関の委員で構成されており、区計画の進行状況の報告、地区別計画の進捗状況の共有、区計画や地区別計画の活動の推進に生かしてきました。

(2)　地区別計画

地区別計画は、各地区の地区別計画推進組織が中心となって年度ごとに振り返り、次年度の行動計画に生かします。地区により異なりますが、一例としては、単年度の行動計画（アクションプラン）を作成し、各戸配付などの方法で周知しながら取組を進めています。

また、多くの人に地域福祉保健計画とその取組内容を知ってもらうきっかけとして、広報よこはま泉区版の紙面を活用した地区別計画の取組紹介や、毎年「地域福祉保健計画推進イベント」や「活動発表会」の場で、地域の活動団体の紹介や12地区の１年間の取組を発表しています。

(3)　区計画

区計画は、年度ごとに具体的な事業計画を作成し、実行します。その結果を点検し、次年度の事業計画へ反映させるというＰＤＣＡサイクルの視点を持って取り組みます。さらに、地域福祉保健推進協議会などで共有することで、進行管理を行います。

また、第４期計画の３年目にあたる令和５年度に、これまでの取組状況と残りの２年間を見据えた中間振り返りを行い、より効果的な計画の推進を目指します。

そして、計画の最終年度である令和７年度には、計画の総合評価を行い、次期計画の策定に活かします。

最終振り返りにあたっては、第４期計画の推進によってどのような変化が生じたかを測り、行動計画に基づく取組結果とあわせて、計画全体の取組状況を確認していきます。

さらに、第４期計画からは、「評価の指標」となる活動指標を定め、「目指すまちの姿」にどれだけ近づいたかという視点で、定量（量）及び定性（質）の両面から総合的に判断し、評価を行います。

評価方法

①活動指標の経年変化や取組状況を確認し、定量・定性評価を行います。

②目指すまちの姿にどれだけ近づいたか①及びその経過、課題について考察し、総合的な評価を行います。

第４期　泉区地域福祉保健計画　評価指標

【目指す方向性の凡例】
「増加」… 人数や件数など数量の増加
「上昇」… 割合の上昇（＜　＞は市平均の値）
「 ― 」… 数の増減では測れないが経年変化を観測し、継続していく取組

推進の柱１ 《 健やかに過ごせるまち 》

重点項目１　自分らしく生きるための支援を進める

行動計画	活動指標	現状値（令和元年度末）	目指す方向性	実施主体
①	認知症サポーター養成数	15,213人	増　加	高齢・障害支援課
①	認知症ＳＯＳネットワーク登録者数	148人	―	高齢・障害支援課
①	認知症カフェ数	6か所	―	高齢・障害支援課
①	認知症初期集中支援チームの支援件数	48件	増　加	高齢・障害支援課
①	SOS発見協力機関	39機関	増　加	高齢・障害支援課
①	高齢者虐待対応件数	22件	―	高齢・障害支援課
①	エンディングノート配布数	900冊	増　加	高齢・障害支援課
①	権利擁護事業の新規契約件数	11件	増　加	区社会福祉協議会
①	権利擁護事業から成年後見への移行件数	1件	増　加	区社会福祉協議会
①	成年後見に関する相談件数	7件 （区社協における相談のみ）	―	区社会福祉協議会
②	「在宅におけるチーム医療を担う人材育成研修」の受講者数・受講職種数	80人・11職種	増　加	高齢・障害支援課
②	医療介護の連携がとれていると感じる人の割合（アンケート）	―（新規）	上　昇	高齢・障害支援課
②	在宅医療連携拠点相談件数	250件（継続5件）	増　加	高齢・障害支援課
②	在宅看取り率※1	20.7%＜23.9%＞ （平成30年度）	上　昇	高齢・障害支援課
③	ガイドボランティア登録者数	30人	増　加	区社会福祉協議会
③	障がい理解・担い手育成のためのボランティア講座実施回数・参加者数（出前講座含む）	5回・355人	増　加	区社会福祉協議会

※1　自宅看取りと、病院・診療所を除いた各施設での看取りを合算して算出。

重点項目２　元気でいるための支援を充実させる

行動計画	活動指標	現状値（令和元年度末）	目指す方向性	実施主体
①	健康づくり講座の参加者数	449人	増　加	福祉保健課
①	食生活相談の参加者数	236人	増　加	福祉保健課
①	がん検診の受診率※1	胃　4.5%＜5.1%＞ 子宮　19.9%＜25.6＞ 乳　16.8%＜17.9＞ 大腸　17.3%＜4.6%＞ 肺　15.9%＜10.9＞	上　昇	福祉保健課
①	特定健診の受診率	27.0%＜25.4%＞ （令和元年９月24日現在）	上　昇	保険年金課
①	ふれあい助成金（健康増進区分）による活動団体数	16団体	増　加	区社会福祉協議会
①	公園等への健康遊具の設置か所数	19公園（44基設置）	増　加	土木事務所
①	介護予防の普及啓発（回数・人数）	45回・1,806人	増　加	高齢・障害支援課
①	自主活動グループ等への健康づくりと介護予防活動への支援	18回・152人	増　加	高齢・障害支援課
①	元気づくりステーション グループ数・参加者数	12グループ・5,710人	増　加	高齢・障害支援課

①	介護予防活動グループ数	156グループ	増　加	高齢・障害支援課
①	地域リハビリテーション活動支援事業の専門職の派遣回数・参加者数	11回・229人	増　加	高齢・障害支援課
①	健康づくりと介護予防が連携した取組の実施回数	1 回	増　加	福祉保健課 高齢・障害支援課

※1　横浜市がん検診の受診率のみ

重点項目３　地域の安全をみんなで考える

行動計画	活動指標	現状値（令和元年度末）	目指す方向性	実施主体
①	子育てサポートシステムの延べ利用者数	1,346人	増　加	地域子育て支援拠点
①	防犯講習会の実施回数・参加者数	13回・627人	―	地域振興課
①	まちの防災組織研修参加団体数	32団体（全155団体）	新規参加団体の増加	総務課
①	災害時要援護者支援事業実施地区数の割合	84.3%＜91.0%＞	上　昇	総務課 福祉保健課 高齢・障害支援課
①	通学路安全対策を取っている小学校数	18小学校	―	土木事務所

推進の柱２《 必要な支援が届くまち 》

重点項目１　相談しやすい仕組みを整える

行動計画	活動指標	現状値（令和元年度末）	目指す方向性	実施主体
①	「ひきこもり等の困難を抱える若者の自立支援に向けた専門相談窓口」相談件数	22件	―	こども家庭支援課
②	こんにちは赤ちゃん訪問の訪問率※1	87.5%＜86.0%＞	―	こども家庭支援課
②	赤ちゃん教室への参加者数	2,333人	―	こども家庭支援課
②	母子保健コーディネーターによる母子健康手帳交付時の面接割合 （母子保健コーディネーターを含めた、医療職による母子健康手帳交付時の面接割合）	33.3%＜48.1%＞ （98.4%＜95.1%＞）	―	こども家庭支援課
②	地域子育て支援拠点における横浜子育てパートナーへの相談件数	230件	―	地域子育て支援拠点
②	精神障害者生活支援センターへの相談件数	6,111件	―	精神障害者生活支援センター
②	基幹相談支援センターへの相談件数	1,996件	―	基幹相談支援センター
②	地域ケアプラザへの相談件数	子ども・障害：214件 高齢：9,672件	―	地域ケアプラザ

※1　令和元年度は新型コロナの影響もあり訪問率が87.5%となっているが、H30年度の訪問率は98.4%であるため、目指す方向性は継続（―）とする。

重点項目２　困りごとを支援につなぐことができる人を増やす

行動計画	活動指標	現状値（令和元年度末）	目指す方向性	実施主体
①	生活困窮者支援における新規相談者数・自立による支援終了者数	新規相談：471人 支援終了：71人	―（新規） 増加（自立）	生活支援課
①	引きこもり等若者支援セミナー・相談会の開催回数	6 回	―	こども家庭支援課

重点項目３　一人ひとりに寄り添った支援から地域の課題を考える

行動計画	活動指標	現状値（令和元年度末）	目指す方向性	実施主体
①	住民主体の地域の活動把握数 （うち、生活支援の数）	19件	増　加	高齢・障害支援課
①	泉サポートプロジェクト参画施設・企業による活動数	22件	増　加	高齢・障害支援課 区社会福祉協議 地域ケアプラザ"
①	地域支援チーム打合せ回数 地区別の地福計画推進のための会議への出席回数	打合せ回数：140回 会議回数：114回	―	福祉保健課

推進の柱３《 人と人、活動と活動がつながるまち 》

重点項目１　参加する人を増やす

行動計画	活動指標	現状値（令和元年度末）	目指す方向性	実施主体
①	地域福祉保健計画推進イベントの参加者数、「地域福祉保健計画」に関心を持った人数	参加者数：110人 関心を持った人数：106人	増　加	福祉保健課
①	ふれあい助成金交付事業の参加者数	67,987人	増　加	区社会福祉協議会
③	公園愛護会、水辺愛護会、 ハマロードサポーターの団体数	公園愛護会：92 水辺愛護会：16 ハマロードサポーター：25	増　加	土木事務所

重点項目２　担い手を増やす

行動計画	活動指標	現状値（令和元年度末）	目指す方向性	実施主体
①	民生委員児童委員・主任児童委員充足率	90.1％＜92.0％＞ （令和２年４月１日現在）	上　昇	福祉保健課
①	「泉区人財バンク」の紹介件数	235件	―	地域振興課
①	自治会・町内会加入率	76.5％＜72.4％＞ （平成31年４月１日現在）	―	地域振興課
①	ふれあい助成金の交付団体数・担い手数	108団体・1,410人	―	区社会福祉協議会
①	各種ボランティア講座の実施回数・参加者数	５回・126人	増　加	区社会福祉協議会
①	愛護会・ハマサポ交流会の参加者数	視察会（10月：92人） つどい（12月：62人）	―	土木事務所
②	新たな担い手を発掘・育成するための講座参加者数	参加者数：114人	増　加	福祉保健課

重点項目３　つながる機会を作る

行動計画	活動指標	現状値（令和元年度末）	目指す方向性	実施主体
①	住民主体の地域の活動把握数 （うち、交流・居場所の数）	623件	増　加	高齢・障害支援課
①	要支援者等にも配慮した住民主体の支え合い活動の数（サービスＢ等）	３団体	―	高齢・障害支援課
①	福祉教育の実施件数・参加者数	10件・1,244人	増　加	区社会福祉協議会
①	サマースクール実施件数・参加者数	30コマ・93人	増　加	区社会福祉協議会

第４期泉区地域福祉保健計画

【計画構成】（計画期間：令和３年度～令和７年度）

基本理念

「互いに支え助け合う！誰もが安心して暮らせるまち泉」

推進の柱

1 「健やかに過ごせるまち」
2 「必要な支援が届くまち」
3 「人と人、活動と活動がつながるまち」

地区別計画

- 12地区それぞれの目標と取組
- 地域の課題解決に向けた取組

連携

区計画

- 地区別計画を支える計画
- 地区別計画では解決できない課題への取組
- 区域全体の課題への取組

計画の推進及び進行管理

泉区地域福祉保健推進協議会

（分科会：泉区地域福祉保健計画策定・推進検討会）

参考資料

策定・推進検討会での振り返りと課題検討

第３期計画の振り返り及び第４期計画策定のため、令和元年９月から11月に開催した、策定・推進検討会でこれまでの活動の振り返りや課題等について意見を伺い、地区別計画策定に生かしていただくとともに、各地区に共通する課題などは整理したうえで、区計画検討のための基礎資料としました。

推進の柱１

健やかに過ごせるまち

①人口構成比の急激な変化による高齢化が顕著。
②一人暮らしの方が多くなっている。
③在宅生活を送っている人達は色々な困りごと（買い物など）があるが、そこに介護サービスが届かない。
④横のつながりを拡げていかないと、認知症の方を守ってあげる事はできない。
⑤子育てしやすい環境にして、子育て世代にもっと泉区に来てもらいたい。
⑥いつまでも必要とされていると感じていただける場面をどう作っていくか。
⑦元気な高齢者にどのように地域活動や担い手として参加してもらえるか。
⑧「生きがいづくり」が地域にどのような形で貢献できるか考えていく必要がある。
⑨災害時に障害のある方や高齢者が安全に避難できる体制作りが必要である。

推進の柱２

必要な支援が届くまち

①地域ケアプラザで相談できる事実がまず認識されておらず、地域ケアプラザの認知が足りない。
②困っている人がどこにいるのかということと、その人たちに対して相談ができるということを伝えていく責任がある。
③いろいろな活動や支援があるにもかかわらずそれが届いていない。同時に、困った人がそもそも誰に相談したらいいのかが分かっていない。
④どこに障害のある人がいるか分からない。
⑤相談されたことを支援につなげていく仕組みがわかりにくい。
⑥どこにもつながっていない軽度の障害児・者など、日常生活ではそんなに困っていない方については、障害サービスがつながる機会は少ない部分がある。
⑦相談をされやすい仕組みというのを地域の中にもう少し増やす。
⑧働きながら子育てをしている親と関われるのは、産育休の間の短い時期しかない。
⑨障害のある人たちについて隣近所でサポートしていけるような体制が少ない。

推進の柱３

人と人、活動と活動がつながるまち

①参加者が固定化している。
②障害のある人たちや孤立化している人たちなど、高齢で元気のある人たちがもっと積極的に参画するきっかけというのをつくっていかなくてはいけない。
③たくさんの啓発が必要。活動を知らないということによって担い手にもならない。地域のことをもっと知る機会が必要。
④産育休が明けたら仕事復帰し、つながりがなくなってしまう。
⑤担い手がとにかく不足し、固定化している。
⑥新しい担い手を増やしていく。
⑦担い手の育成。
⑧活動をもっと連携させていかなくてはいけない。
⑨活動が増えて参加が進む、参加が進んで活動が増えてつながっていくという一つの流れをつくっていかなくてはいけない。
⑩18歳以上の障害者について、日中活動の後の時間を過ごす場所が今はない。

第４期泉区地域福祉保健計画策定・推進検討会　委員名簿

（敬称略）

地区・組織名	委員氏名
中川地区	石田　五十六
和泉中央地区	笠井　尚子
上飯田団地地区	佐野　瞳
泉区医師会	池島　秀明
泉区歯科医師会	橋本　和喜
泉区民生委員児童委員協議会	石井　マサ子
泉区老人福祉施設施設長研究会	倉本　恵造
泉地域活動ホーム　かがやき	金子　恭己
泉区地域子育て支援拠点　すきっぷ	泉　　直子
泉区主任児童委員連絡会	益子　眞弓 （～令和２年３月）
	細谷　幸子 （令和２年４月～）
泉区保健活動推進員会	武関　いと子
泉区ボランティアネットワーク	中嶋　光代
田園調布学園大学人間福祉学部	村井　祐一
泉区福祉保健センター長	秋元　秀臣
泉区福祉保健センター担当部長	竹田　良雄

泉わくわくプラン推進キャラクター
いずちゃん

泉区マスコットキャラクター
いっずん

横浜市泉区役所福祉保健センター福祉保健課

〒245-0024
横浜市泉区和泉中央北5-1-1
TEL 045-800-2433　**FAX** 045-800-2516
EMAIL iz-fukuho@city.yokohama.jp

社会福祉法人　横浜市泉区社会福祉協議会

〒245-0023
横浜市泉区和泉中央南5-4-13
TEL 045-802-2150　**FAX** 045-804-6042
EMAIL normalize@shakyo-iy.or.jp

〈令和３年８月発行〉